週刊 YEAR BOOK

1942 昭和17年 日録20世紀

7|8
平成9年7月8日発行
(毎週1回発行)第1巻第20号
¥560
講談社

ミッドウェーの大惨敗!

80万人の朝鮮人・中国人に強制連行の“地獄”
円谷英二の特撮映画「ハワイ・マレー沖海戦」
ユダヤ人抹殺とナチス「

虎の子の空母4隻を失う大惨敗!
情報戦で敗れたミッドウェーと“大本営発表”

昭和17年6月、ミッドウェー海戦で連合艦隊は、空母4隻を失う致命的敗北を喫する。
開戦から半年、東南アジアで破竹の進撃を続けた日本軍は勝勢にピリオドを打ち、
欧州でもナチス・ドイツが、ソ連とのスターリングラード攻防戦で敗走に転じた。

▼空母「飛龍」の最期。ほかの3隻の空母が6月5日に撃沈された後も攻撃を続行したが、火災が拡大し、6日、ついに沈没した。 「丸」提供

日米の形勢逆転！ 開戦半年後の大敗

昭和一七年六月五日、早朝――。まもなく届くはずの大勝利の報告を待って、手回しよく乾杯用の杯を準備していた大本営に、思いもよらぬ戦慄が走った。

東京からはるか四〇〇〇キロ強の南太平洋のミッドウェーから届いた連絡は、「敵艦上機および陸上機の攻撃を受け、(空母)『加賀』『蒼龍』『赤城』大火災」だった。さらに「『飛龍』に爆弾命中火災」「敵空母四隻依然存在す。わが母艦は作戦可能なるもの皆無なり」と続報が届く。空気は一瞬にして凍りつき、誰もが茫然自失、祝杯はおろか、口を開くものすらなかった。だが、国民に対しては、「米空母二隻撃沈、わが方損害空母喪失一、同大破一」などと戦果を誇大に、被害を過小に報じる「大本営発表」で欺いたのである。

開戦からほぼ半年、日本軍が初めて経験した決定的な敗北だった。

この年の一月三日、昭和天皇（四〇）は弟・高松宮（三七）の誕生日を上機嫌で迎えていた。午前九時、「本間雅晴中将（五四）率いる第一四軍が、二日午後、マニラを占領した」と報告されたからだ。天皇はこれを受け、陸相の東条英機（五七、首相兼務）、海相の嶋田繁太郎（五八）に対し、殊勲の功績をたたえ、カモ五〇羽ずつを与えている。日本軍の進撃はさらに続いた。一一日には「マレーの虎」の異名を持つ山下奉文中将（五六）を司令官とする第二五軍が、クアラルン

▼キスカ、アッツ両島の攻略をめざす北方作戦も同時に行われた。

▲6月11日、一斉にミッドウェー海戦の「勝利」を報じる新聞各紙。海軍の“真相隠し”は徹底をきわめ、生き残った兵士には厳重な箝口令が敷かれた。 斎藤守司

◎表紙　1940年頃のヒトラー。左はナチス幹部の妻インガ。側近の写真家イエーガーが撮った貴重なカラー写真。 TIME LIFE／PPS

虎の子の空母4隻を失う大惨敗!

情報戦で敗れたミッドウェーと“大本営発表”

プールを攻略、二月一五日にはシンガポールを陥落させている。この攻防戦で日本軍は戦死者三五〇七人、戦傷者六一五〇人、イギリス軍主力の連合国側の捕虜は一〇万人にも達した。

シンガポールに香港、マニラを加え、東洋の主要拠点がことごとく日本の手に落ちたのである。派遣された日本軍は、一一個師団約二一万人、南方作戦は、フィリピンのバターン半島など一部をのぞき、ほぼ所期の目標を達成したのだ。

相次ぐ大勝利に、天皇自身もことのほか喜び、側近に「木戸（幸一・内大臣）には度々云う様だけれど、全く最初に慎重に充分研究したからだ」と述懐している。それどころか午後には「スキーを遊ばさ」れているほどだ（木戸幸一『木戸幸一日記』二月一五日）。

国民の熱狂も頂点に達した。二月一八日、全国で戦捷祝賀式が開かれ、一世帯当たり三合の日本酒、子どもには一人一〇銭分の菓子が配られた。東京では、東京市と朝日新聞社共催の「大東亜戦争士気昂揚大音楽行進」が行われ、陸軍音楽隊を先頭に、八〇〇〇人の市民が都心を日の丸の小旗を振りながら練り歩いた。

だが、こうした戦勝気分は、この祝賀式が最後になった。

解読されていた暗号 情報戦で敗れた日本

四月一八日、本土上空にB25爆撃機が襲来した。初の本土空襲だった。ジェームス・ドゥーリトル中佐（四五）指揮の一六機で、機内からは映画監督ジョン・フォード（四七）が記録映画を撮影していた。白昼の空襲は、東京で死者三九人の被害にとどまったが、政府や軍部に与えた衝撃はきわめて大きかった。

そして六月、ミッドウェー大海戦が展開された。米軍の太平洋上の戦略拠点ミッドウェーは、ハワイ北西の面積五平方キロの環礁。真珠湾以来、赤道を一周半分も転戦した連合艦隊は、六隻の空母をはじめ艦船一一六、航空機三〇八機と、米機動艦隊をはるかにしのぐ偉容であった。

連合艦隊のねらいは、米機動部隊と雌雄を決しようというものだった。だが米軍は諜報により、日本軍の行動を確実に把握していた。戦史の常識だが、と前置きして、軍事評論家の佐藤達也氏が言う。

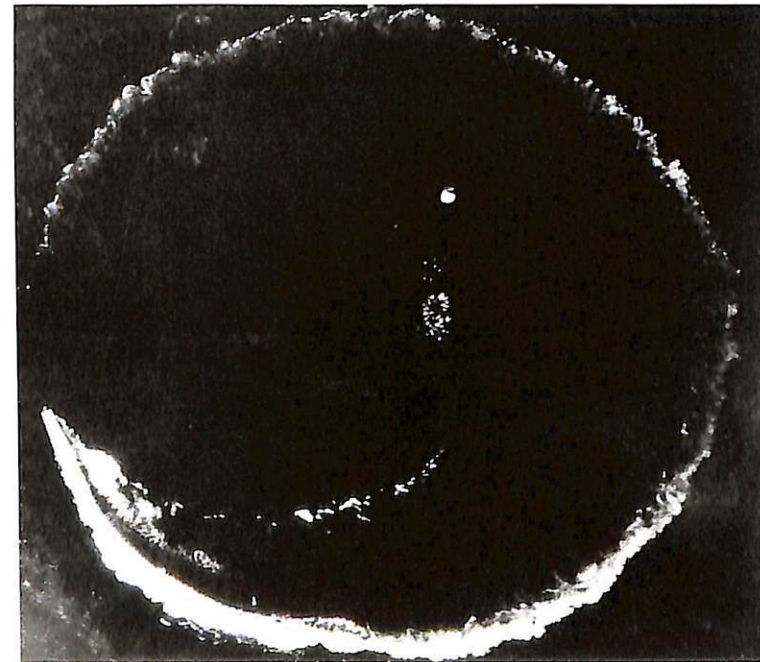
「米太平洋艦隊司令長官ニミッツは、日本軍のミッドウェー作戦の概要を暗号解読で知り、邀撃配備を発令し、二〇日頃には日本艦隊の編成、進路、日程の詳細を知っていた。連合艦隊は飛んで火にいるなんとやらだったのです」

一方の連合艦隊は、相手機動部隊が待ち伏せていることなど知るよしもなく、奇襲攻撃の成功、つまり真珠湾の再現を夢想していた。ミッドウェー島への攻撃開始は六月五日午前三時三四分頃から。一〇八機の第一次攻撃隊がミッドウェー基地を襲った。しかし迎撃機との戦闘に追われ、主目的の滑走路破壊は不充分に終わっている。一方、米の空母「ホーネット」などの艦上機も、午前四時頃から日本艦船に向け、発進を開始した。しかしその動きを日本側は察知していない。

そして司令長官・南雲忠一中将（五五）は、第二次攻撃を決意し、艦船攻撃用の魚雷や爆弾の装備（雷装）を、地上攻撃用爆弾に変更せよと命じた。装備替えの最中、「敵艦隊らしきもの発見」の報が入り、装備は再び雷装に戻される。さらに、第一次攻撃隊機の収容で混乱し、無防備の上空に、午前七時二三分、米軍の急降下爆撃機が飛来した。空母が次々と被弾し、誘爆を起こして一気に燃え上がった。わずか数分の出来事だった。澤地久枝の労作『滄海よ眠れ』によれば、日米双方の戦死者は三四一八人にのぼった。

ミッドウェー海戦は太平洋戦争最大の転機とされる。以降日米の優劣は完全に逆転し、日本軍はいっきょに退勢に向かうのである。

▲米軍に救助された、空母「飛龍」の乗組員。15日間漂流の後、34人が捕虜となった。周辺海域では母艦を失ったパイロットや艦船乗員など多数が、救助のあてもなく死んでいった。 「丸」提供

▲米爆撃機の水平爆撃にさらされる空母「飛龍」。この時は全弾を回避し、艦上機により米空母「ヨークタウン」を攻撃、撃沈にいたらせた。 毎日新聞社

▲爆撃回避中の「蒼龍」。この2時間後に被弾、大火災を起こす。 毎日新聞社

「大本営発表」の推移

ミッドウェー海戦大敗の報を受けた大本営海軍部では、以降、三日三晩激論が続いた。どう発表するのか、が議論されたのである。発表された被害と、実際の被害は別表のとおりだった。

太平洋戦争開戦から敗戦まで、大本営発表は合わせて846回を数える。虚報の代名詞となった「大本営発表」は、勝ち戦ではあまり見られず、この海戦以降に集中している。

ソロモン諸島のガダルカナル島（以下ガ島）の、昭和17年7月から18年2月までの攻防戦ではすでに日本軍の補給能力がなく、戦闘とともに食糧不足で多くの将兵が生命を奪われ、島の名も「餓島」と呼ばれた。これに対する18年2月9日の大本営発表はこうだ。

「ガ島に作戦中の部隊は（略）その目的を達成せるに依り2月上旬（略）他に転進せしめられたり。（略）戦死及び戦病死1万6734名」

しかし実際は、近接のブナ島を含め、3万7000人もの人命を失っている。しかも退却とも撤退とも言わず、転進と発表された。以後、「転進」は退却、撤退を示す常套句となる。

種目	米 死傷	米 飛行機 艦上機	米 飛行機 陸上機	米 潜水艦	米 駆逐艦	米 甲巡	米 空母	日 死傷	日 飛行機	日 潜水艦	日 駆逐艦	日 巡洋艦 乙	日 巡洋艦 甲	日 戦艦	日 空母 補助	日 空母 正規
兵力		180	121	20	14	8	3		372	16	33	4	3	4	3	4
発表損害		約150		1		1	2		35							1 (1)
実際	307	113	37 (計150)		1		1	3200	42 (280)	1	(2)		1 (1)	(1)		4

▲ミッドウェー海戦の「大本営発表」と実際の損害。損害の数字は喪失数。かっこ内は損傷数。

敗色濃厚になるにつれ、大本営発表の粉飾度は高くなっていく。昭和19年2月のトラック島では、残り少ない艦船のうち、2隻の巡洋艦を含む11隻が失われ、さらに燃料基地や、軍需品の山が跡かたもなく消失した。その被害の発表は、起案者の「甚大な被害」という原稿が「相当」に変わり、最終的には「若干」に落ち着いている。最も極端なケースは台湾沖航空戦である。19年10月12日から16日にかけての航空戦で、大本営は19日、「空母11隻を含む17隻を撃沈、空母8隻を含む28隻を大破した」と発表した。国民は久方ぶりの「大勝利」に沸きたち、勅語も与えられた。ところが実際には、この戦果は幻だった。未熟な航空機搭乗員の誤認などが原因だが、大本営は事実誤認がわかった後もまったく訂正することがなかったのである。

“切手代3銭”で強制連行! 80万人もの朝鮮人・中国人が見た「地獄」

最大時五〇〇万人を超える将兵を動員し、文字どおり総力戦を進めた日本は、一方で深刻な労働力不足におちいった。この打開策として実施されたのが朝鮮人・中国人の強制連行だ。八〇万もの人々を有無を言わさず駆り出した蛮行は、現在の日本外交にも深い傷痕を残している。

「斡旋」とは名ばかり朝鮮人の強制連行

「ある日、面事務所（村役場）に呼び出されると、いきなり役人が『二、三年日本で働いてこい』と言うんです。オモニ（母）を残して行けないからいやだって言ったら、『テメエ、国のためだろう』ってその場で殴られて蹴とばされた。その時、横でニヤニヤ笑っている日本人が足尾銅山の坑内部長だった。翌朝六時頃オモニを連れて逃げようと思ったら、もう家のまわりを警官に囲まれていて、有無を言わさずトラックに乗せられた。それっきりオモニの顔は見られなかった」

昭和一六年頃、栃木県の古河鉱業足尾鉱業所（足尾銅山）に連行され、今も千葉県で暮らす鄭雲模さん（七七）は、こうして朝鮮・忠清北道での暮らしを失った。

昭和一七年二月、時の東条英機内閣は一四年から行ってきた朝鮮人労務者の国内移入を本格化する。その方法は「募集」や「官斡旋」などと呼ばれたが、実態は鄭さんが語るような強権的かつ暴力的な、文字どおりの「強制連行」であった。

日中戦争、太平洋戦争と日本は兵力の大量動員を余儀なくされた。一五年に一七二万人だった陸海軍現役軍人数は一九年には五三七万人へと急増する。一方で、増産を迫られる産業界では徴兵による労働力不足が深刻化し、政府は「国民徴用令」や女子・学生の勤労動員で労働力を補おうとした。

朝鮮人の強制連行はその一環として行われ、一七年度の国民動員計画一九六万人のうち一三万人、翌年には動員計画二三九万人の八・四%を占める二〇万人の朝鮮人連行が計画される。さらに一九年には「国民徴用令」を朝鮮にも適用し、終戦までに七〇万とも八〇万とも言われる朝鮮人を日本国内の炭鉱や鉱山、建設現場などに連行したのだった。在日本朝鮮人総連合会によれば、最終的には軍人・軍属などを含め約六〇〇万人の朝鮮人が国内外に強制連行され

▲「故郷に帰りたい」などと記された、炭住の壁の落書き。　豊崎博光

▲筑豊・麻生炭鉱愛宕坑の坑口前で撮影された、朝鮮人労働者の記念写真（昭和19年6月）。太平洋戦争下、朝鮮人労働者の現場の姿を伝える写真は珍しい。　野見山鞠所蔵

▲福岡県・貝島大之浦炭鉱の朝鮮人坑夫保安教育の様子。強制連行された朝鮮人は、作業訓練や皇民訓練を通じて、厳しい管理下におかれた。昭和18年撮影。

たという。

また戦時中、日本軍は日本人女性だけでなく、朝鮮、台湾、中国、フィリピン、ビルマなど占領地全域で慰安婦を集め、各地に慰安所を設置した。太平洋戦争末までの総数が六万とも二〇万とも言われる慰安婦のうち、多くが未成年者も含めた朝鮮、中国の女性によって占められていたのである。

中国人に対しても苛酷な労働を強制

強制連行の対象となったのは朝鮮人だけではなかった。昭和一二年からは華北、満州（中国東北部）で連行された多くの中国人が満州の炭鉱などに送られていた。

連行方法は朝鮮人と同様だったが、占領地の中国（おもに華北地方）では、戦闘や治安活動で捕らえた俘虜（ふりょ）の売買も行われていた。収容所から労務者として事業者に「供出」される俘虜の値段は一人三五円。そのうち一八円が現地の軍の手に渡る仕組みで、軍は俘虜を得るために積極的な「討伐」作戦も行った。

一七年一一月二七日、「華人労務者内地移入ニ関スル件」が閣議決定され、朝鮮人に続き中国人の国内への強制連行が画策される。一八年に試験移入と称して一四二〇人を連行し一九年から本格化すると、戦後に作成された外務省報告書に記されたものだけで、国内一三五の事業場に中国人労働者が連行されていった。

国内に連行された中国人三万八九三五人のうち死亡者は六八三〇人。中でも秋田県の花岡（はなおか）鉱山鹿島組（現・鹿島）出張所では九七九人のうち死者四一八人、実に死亡率は四三（パーセント）にのぼる。その中には終戦の年の二〇年六月三〇日、待遇のひどさに耐え兼ねて一斉蜂起し鎮圧された「鹿島花岡事件」の犠牲者約一〇〇人も含まれている。蜂起に加わった王敏（ワンミン）さんは、平成三年から争われている「花岡事件」裁判の公判陳述書の中で要旨をこう述べている。

「花岡は人間地獄でした。食べるものはドングリ粉やリンゴかすでできた饅頭（まんじゅう）。休みもなく毎日一二時間以上、時には一五、六時間も働かされ、手を休めただけで補導員の棍棒（こんぼう）で体中を殴られました」

こうした苛酷な労働条件は花岡鉱山に限ったものではなかった。鄭さんは足尾銅山で、めちゃくちゃに殴られながら聞いた言葉を今でも忘れないと言う。

「テメェら半島人なんか、一匹や二匹くたばったって、一銭も出せばいくらでも引っ張ってこれるんだよ！」

当時、切手は三銭。中国人も朝鮮人も申請の手紙を出せば、いくらでも手に入るという感覚だったのである。

日本への産業分野別朝鮮人強制連行数

凡例：工場そのほか／金属山／土建／石炭山（単位 人）

年	合計
昭和14年	53,120人
15年	59,398人
16年	67,098人
17年	119,821人
18年	128,296人
19年	286,432人
20年	10,622人

出典　大蔵省管理局　日本人の海外活動に関する史的調査

女たちの肖像

「芸」ひたすらの"女優魂" 時局映画に背を向けて山田五十鈴、新劇団結成

稲葉真弓

日本三大舞台女優の一人に数えられる山田五十鈴には、いくつかの転機がある。そのひとつが、一五歳のこの年、長谷川一夫（三四）と結成した「新演伎座」であった。

昭和五年、一四歳で日活に入った彼女は大河内伝次郎（おおこうちでんじろう）と共演した「剣を越えて」でデビュー。九年、溝口健二監督に認められて第一映画社に移り、一一年、「浪華悲歌（なにわエレジー）」「祇園の姉妹」で人気スターとなったが、折しも日本は戦争に突入、日の丸の旗が氾濫する映画が続々と制作された。このため彼女は舞台に活路をみいだそうと、長谷川一夫らと商業劇団を結成したのである。

「新演伎座」は戦後解散したが、当時は軍歌ばかりが流れ三味線などもってのほか。それを雨戸を閉ざした暗い部屋で一人ひたすら三味線の稽古をしていたという話は、後の大女優・山田五十鈴を語る時の語り種（ぐさ）のひとつになっているが、この人の芸に賭ける根性は並たいていのものではない。昭和三一年、「猫と庄造と二人のをんな」「流れる」など名作映画に主演し次々と主演女優賞を得たが、「猫と庄造……」の時は、猫を手なずけるために体にさばの干物をなすりつけ、一週間も風呂に入らなかったという逸話も残っている。

もともと彼女は芸事に縁の深い生い立ちである。父親は関西新派の看板女形（おんながた）・山田九州男（くすお）、母は北の新地の売れっ子芸者だった。六歳の頃から常磐津（ときわず）、清元（きよもと）、長唄、踊りを仕込まれ、清元は一一歳で名取。母娘で看板を掲げ、人にも教えたという。

「芸」に賭けるひたむきさは男性遍歴にも現れていて、マスコミに華やかな話題を提供した。最初の夫は若手スターの月田（つきだ）一郎で、昭和一〇年、まわりの反対を押し切って結婚、一人娘（女優の瑳峨（さが）三智子・故人）をもうけるが、一七年に離婚。以後は新派の俳優・花柳章太郎とのロマンスをはじめ、プロデューサーの滝村和男、映画監督の衣笠貞之助（ていのすけ）、新劇の加藤嘉（よし）、下元勉（つとむ）などと恋愛遍歴を繰り返した。

評論家の青地晨（しん）は「彼女の恋は全身全霊をあげての体当たり。相手から吸収する実り多い恋愛」と評したが、年を経るごとに演技は円熟味を増し、四九年の舞台「たぬき」を筆頭に計三回の芸術祭大賞を受賞、平成五年には文化功労者に選ばれている。

▶昭和一一年の「浪華悲歌」で、第一線女優となる。

勝者・敗者

「延長二八回」引き分け！大洋・野口VS名古屋・西沢 プロ野球世界記録の熱投

阿部珠樹

五月二四日、よく晴れた日曜日である。東京・後楽園球場では、一二時四〇分から職業野球名古屋対大洋の試合が始まった。

名古屋の先発は後に一塁手に転向して中日ドラゴンズの主砲になる西沢道夫（二〇）、大洋の先発は、中学時代から鉄腕とうたわれた野口二郎（二二）だった。野口は、この前日の朝日との試合で九回を投げ切り、完封勝利をあげている。連投だったのだ。その疲れもあってか、立ち上がりは不安定だったが、八回まで名古屋を二点におさえていた。

一方の西沢は、最初は好調だったが、六回、七回に集中打をあび、大洋に四点を献上していた。九回表、さすがの鉄腕・野口も疲れたのか、二死までこぎつけながら、同点ツーランをあび、試合は延長に突入する。

ここからが本当の試合の始まりだった。延長に入ると、両投手は憑き物が落ちたように立ち直り、互いに得点を許さない。スコアボードにはひたすらゼロが並んでいく。そして二五回。夏の甲子園で語り種となった中京商業対明石中学の記録を越え、試合は世界タイ記録の二六回へ。ここでもなお決着がつかず、とうとう世界新記録の二七回にまでもつれこむ。「世界新記録に入ります」という場内アナウンスに、二五〇〇〇の観客は、総立ちで拍手を送った。一五年秋以降、軍命令で引き分け試合は禁じられていた。敢闘精神に反するという理由である。しかし、試合は決着がつかず、日没のため二八回をもってやむなく引き分けとなった。

「疲れたろうと言われましたが、人間の能力は、いざとなれば無限じゃないですか」

二八回を一人で投げ抜いた西沢は胸を張った。その投球数は三一一を数えていた。

一方、同じく二八回三五一球を一人で投げ抜き、前日の九回と合わせると二日間で三七回（四試合分以上！）もマウンドに登り続けた野口は、「相手が投げ続けているのだから、交代するなんて気は起こりませんでした」と鉄腕のプライドを見せた。この試合の所要時間は三時間四七分。いかにスピーディーに闘われたかがよくわかる。

▲延長10回から28回まで、ゼロをつらねたスコアボード。　東京ドーム提供

▲**日本軍、マニラに無血入城(1月2日)** 前年12月、フィリピンに南北から上陸、首都進撃をねらったが、米比軍は司令部をコレヒドール島に移し、激突を回避した。写真は市中心部を行進する日本軍。

CORBIS-BETTMANN／PPS

「アサヒグラフ」より

▲**開戦勝利に酔う日本人(1月7日)**「アサヒグラフ」に載った加藤悦郎の漫画。「ほうれんそうの偉力は銀幕の中だけさ」と説明があり、前年12月8日のハワイ真珠湾攻撃以降の米国に対する庶民の優越感を代弁。

古川清

▶**古川緑波らの大詔奉戴日(1月8日)** 政府は年頭初閣議で毎月8日を大詔奉戴日に定め、詔書奉読、職域奉公などを義務づけた。東京・有楽座で債券を売る右から二人目緑波、その左隣は高峰秀子。

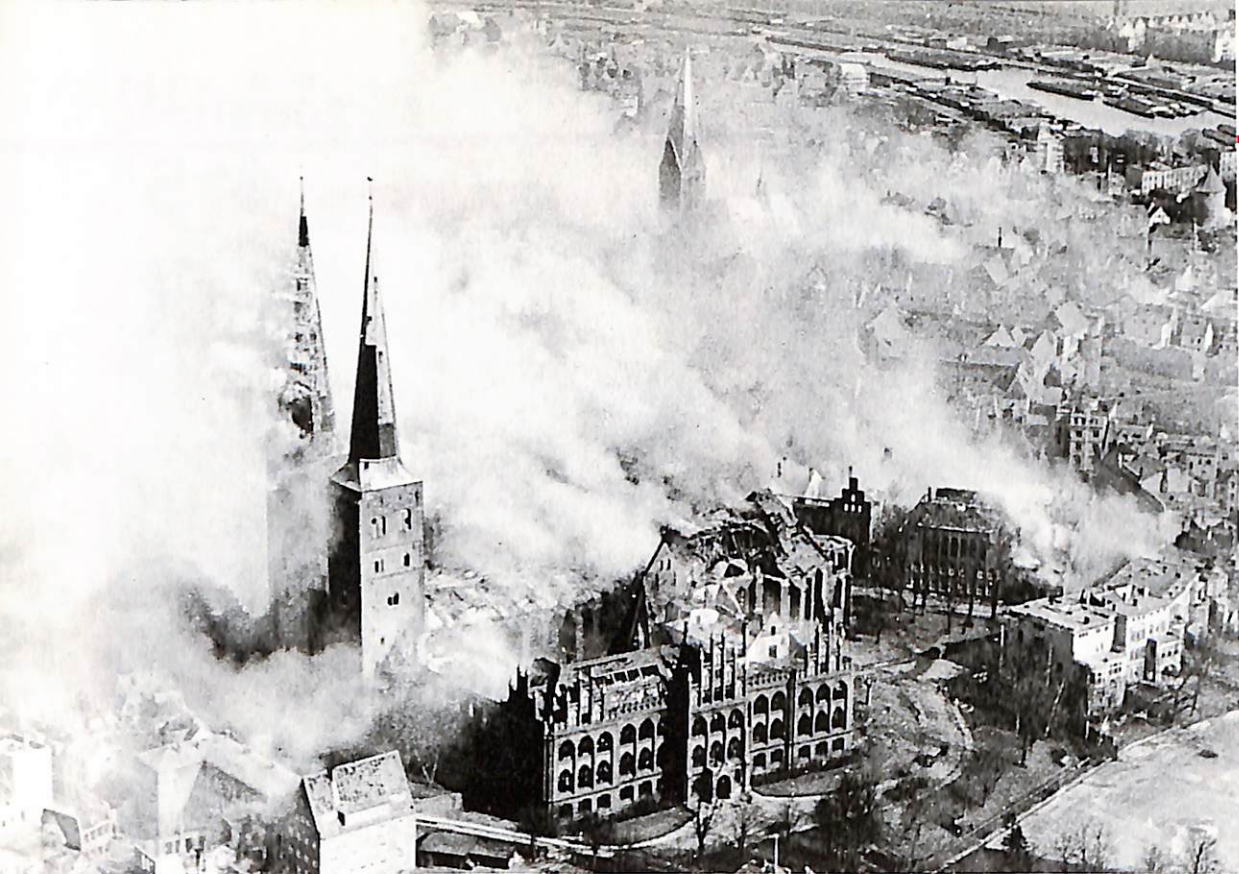
「大東亜戦争報道写真録」より

▼**シンガポールをめざす銀輪部隊(1月)** 日本軍は前年12月8日にマレー半島中東部上陸以来、戦闘を重ねつつ1日平均約20キロという驚異的な速度で南下。写真は渡河する歩兵部隊。自転車で進撃のスピードアップをはかった。

三木淳／JPS

◀**松竹軽音楽団のジャズ(1月)** 昭和初期のジャズ隆盛を担ったトランペッター南里文雄らが前年9月に7人で編成、軍隊慰問や対米謀略放送で演奏した。写真は新宿の第一劇場での演奏風景。クラリネットにレイモンド・コンデ、ギターに角田孝らスタープレーヤーがそろっていた。

昭和17年1月

1(木)●食塩の通帳配給制度始まる。
●連合国二六カ国、日独との単独不講和を宣言。
2(金)●第一四軍、マニラを占領(3日軍政を布告)。
3(土)●蘭印に米英蘭豪(ABDA)連合司令部設置。
4(日)●ベルリン五輪(昭和11年)棒高跳び銅メダルの大江季雄がフィリピン上陸戦で戦死と判明。
5(月)●米英の対日参戦要請をソ連が拒否と報道。
6(火)●陸海軍機千余機が東京上空で示威飛行。
7(水)●東京の中等・高等学校生徒に初の勤労出動令。
8(木)●太平洋戦争開戦後初の陸軍観兵式挙行。
9(金)●第一四軍、バターン半島攻撃を開始。
●銀座の料亭三七軒に闇取り引きで罰金求刑。
10(土)●厚生省に結婚報国懇話会発足。
●新興キネマ・大都映画・日活が合併し大日本映画製作(大映)設立。
●羽黒山、横綱昇進披露宴の費用を軍に献金。
11(日)●海軍陸戦隊、セレベス島に初の落下傘降下。
12(月)●ボルネオ・タラカン島の蘭軍が降伏。
13(火)●閣議、俸給生活者の家族手当を月三円と決定。
14(水)●香川県善通寺と上海・香港に俘虜収容所設置。
15(木)●外国製乗用車の販売が禁止になる。
16(金)●大日本翼賛壮年団(翼壮)結成。
●大蔵省、戦時増税法案要綱発表。
17(土)●農林省が肉不足解消のため子豚一二万頭の増産計画と新聞に。
18(日)●日独伊新軍事協定、ベルリンで調印。
19(月)●大本営、香港占領地総督部設置を発令。
20(火)●ナチス指導者、欧州ユダヤ人の殺害を決定(ヴァンゼー会議)。
21(水)●東京市内四地区に陸軍女子挺身隊が発足。
22(木)●大本営、南方軍にビルマ攻略を発令。
23(金)●日本軍、ラバウルに上陸し占領。
24(土)●警視庁、一時間二〇〇人の撮影可能なX線車を完成させ、検診を開始。
25(日)●タイ、米英に宣戦布告し、ビルマに侵攻。
26(月)●一八〇億円の臨時軍事費追加予算案、可決。
27(火)●軍への献金切手発行決定。二銭・四銭切手を三銭・六銭で発売。
28(水)●埼玉県で越境買い出しの主婦ら数百人検挙。
●商工省、ブリキ玩具の公定価格を公布。
29(木)●大相撲力士二〇〇人が軍事教練を受ける。
30(金)●岸信介商相、石油試掘は帝国石油が、と答弁。
31(土)●藤田嗣治ら画家二〇〇〇人が陸海軍への一人一点新作献納を決議。

フォト＋日録で再現する365日

シンガポール、マニラ……日本軍は破竹の勢いで東南アジア各地を占領してゆく。しかし六月、ミッドウェー海戦で主力空母四隻を失う大敗を喫し、戦局は一転した。国内では食糧・物不足のあまり、「欲しがりません勝つまでは」の合い言葉が生まれた。

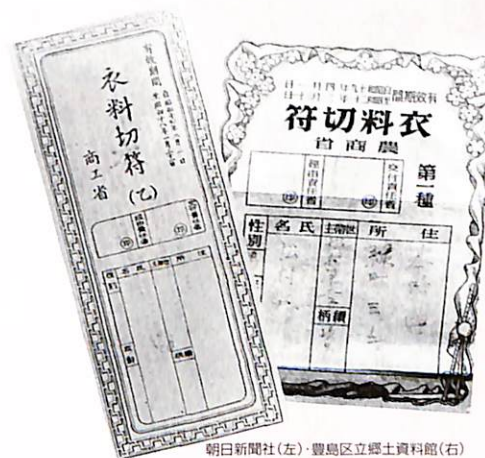
◀**非常時体制の小学生(12月12日)** 前年から児童は「少国民」と呼び改められ、一億総動員の掛け声は小学校にもおよんだ。写真は寒風の中、東京・赤坂の氷川国民学校で行われた裸体操。戦力の一員として鍛えられた。

毎日新聞社

影山光洋

井上女神提供

▲シンガポール占領(2月15日)マレー半島上陸後、破竹の勢いで南下した日本軍は2月8日、市街近郊のブキテマ高地で英軍と激戦。司令官パーシバル(写真右端)は15日、ついに降伏した。

▶衣料品点数切符制実施(2月1日)生活必需物資の本格的な割当制のひとつで、一人1年に都市部で100点、郡部で80点までとし、背広上下50点、婦人ワンピース15点、靴下2点など。

▼全国で戦捷祝賀式(2月18日)シンガポール占領を祝し、神社参拝や旗行列が続いた。写真は大政翼賛会などの主催で東京の日比谷公園で開かれた祝賀式。東条英機首相らも出席、約10万人が参加した。

▲花婿は国民服、花嫁は黒紋つき(2月1日)京都の自宅で近親だけの結婚式をあげた男女の婚礼衣装。酒1升と米は特配されたが、祝宴用料理の材料は闇で入手。引き出物も闇の饅頭だった。

朝日新聞社(左)・豊島区立郷土資料館(右)

菊池俊吉

▲落下傘部隊、パレンバン(スマトラ)を奇襲(2月14日)石油資源を求め蘭印攻略をめざす日本軍が空挺作戦を敢行、製油所占領に成功した。写真はマレー半島カハン飛行場での出発準備。

▶米国へ運ばれたフィリピンの金塊(2月)マニラからコレヒドール島に移されていた、政府・銀行・鉱山の資産、金塊2トンや有価証券などが、海上で巡洋艦に移しかえられ(写真)米国へ。

月刊沖縄社

昭和17年2月

1(日)●味噌・醤油通帳割当制、衣料品点数切符制実施。
●東京の路面電車・バスが市営に統合される。

2(月)●全婦人団体が統合され、大日本婦人会発足。

3(火)●室生犀星作詞「陥落す、シンガポール」の大合唱をラジオ放送と新聞に。

4(水)●海軍航空部隊、米英蘭艦隊とジャワ沖海戦。

5(木)●日本新聞会、設立総会開催。

6(金)●前年三月末で国民貯蓄組合数五三万、貯蓄額二〇億円と大蔵省発表。

7(土)●古着にも公定価格設定。古さで五等級に分類。

8(日)●第二五軍、シンガポールを総攻撃。

9(月)●海軍、セレベス島マカッサルを占領。

10(火)●日蓮宗僧侶が「敵国降伏大国祈会」を実施。

11(水)●対外宣伝グラフ雑誌「FRONT」創刊。
●日本少国民文化協会、発会式。

12(木)●民法改正で「私生児」「庶子」の表現抹消。

13(金)●兵器等製造事業特別助成法公布。

14(土)●防空警報の伝達方法を全国的に統一。

15(日)●第二五軍、シンガポールを占領。

16(月)●シンガポール陥落記念国防献金つき切手発売。

17(火)●大本営、シンガポールを昭南島に改称と発表。

18(水)●「大東亜戦捷第一次祝賀式」に一〇万人参加。
●輸出不適品となり内地にまわされた戦車などの金属製玩具が、一斉発売になる。
●翼賛選挙貫徹などの基本要綱を閣議決定。

19(木)●米、太平洋岸に住む日系人の強制退去を決定。
●筒袖にもんぺの「時局型」婦人標準服を決定。

20(金)●東京市銃後奉公会が武運祈念の鯉のぼり一万流を前線に送る、と新聞に。

21(土)●食糧の国家管理を目的とする食糧管理法公布。
●マレー縦貫鉄道(約三〇〇〇キロ)の開通式。
●ひとのみち教団の御木徳近らに不敬罪判決。

22(日)●米大統領、米極東軍司令官マッカーサーに比島脱出を命令。

23(月)●ボルネオ産原油の内地向け油槽第一船出港。

24(火)●米の対外放送「ボイス・オブ・アメリカ」開局。

25(水)●竹とロウソクで作る「国策灯」は懐中電灯の代用品と新聞に。

26(木)●大日本青少年団、女子団員に傷痍軍人との結婚を奨励するなど、新指導要綱を決定。

27(金)●米炊きの最低費用は米一キロ当たりガスは一銭一厘、木炭・薪はその二倍、と新聞に。

28(土)●第五水雷戦隊などが連合軍艦隊とバタビア沖海戦。駆逐艦四隻残しすべて撃沈。

キーストン

▲「米英撃滅」手榴弾投げ競争(3月1日)後楽園球場の巨人対大洋定期戦の試合前に、両軍選抜選手によって行われたプロ野球のアトラクション。点板(写真上)を的に手榴弾を投げ、点数を競った。下は待機する軍服姿の大洋の選手。
「日本プロ野球50年史」(ベースボール・マガジン社)より

◀英軍、古都リューベックを爆撃(3月28日)連合軍初の絨毯爆撃、爆弾160トンなどの投下により家屋1044戸を破壊、死傷者は1040人に達した。中世の遺構を残すこの都市には軍事施設はほとんどなく、たんにドイツの戦意を喪失させるのが目的だった。写真は炎上する大聖堂。

◀南方宣伝班に動員された横山隆一(3月)新聞漫画「フクチャン」で人気者だったが、部隊慰問や現地住民への対日協力を要請する宣伝活動に従事。写真はスマトラ島で。

▼真珠湾攻撃の「九軍神」公表(3月6日)特殊潜航艇による奇襲作戦の勇士として顕彰されたが、10人で出発していたことは隠された。前年11月14日、出発前の写真。

横山隆一提供

朝日新聞社

▲スラバヤ沖海戦で連合軍撃破(2月27日)第5艦隊などが米英豪蘭艦隊と激突、ジャワ島での優勢を確定させてゆく。写真は集中砲火をあびて沈む英の巡洋艦「エクゼター」。

▶米極東軍司令官マッカーサー、フィリピン脱出(3月11日)後退を余儀なくされ、魚雷艇でコレヒドール島からオーストラリアへ。写真はメルボルンに到着したマッカーサー。

CORBIS-BETTMANN/PPS

佐賀新聞社

昭和17年3月

1(日)●長谷川一夫・山田五十鈴が「新演伎座」旗揚げ。

2(月)●商工省、ガス超過使用者には供給停止と発表。

3(火)●シンガポールの抗日中国人摘発で、この日までに七万六九九人検挙。

4(水)●ハルゼー指揮の米機動部隊、南鳥島を攻撃。

5(木)●東京に初の空襲警報発令(誤報)。

6(金)●海軍省、真珠湾での戦死者を「九軍神」と発表。

7(土)●東条首相の太平洋戦争開戦日の談話を録音したレコードが発売される。

8(日)●第一五軍、ビルマのラングーンを占領。

9(月)●第一六軍、バンドン占領。ジャワの蘭印軍降伏。
●神奈川県の中等・国民学校で外套・手袋禁止。

10(火)●陸軍記念日に東京府下で一世帯酒五合の特配。

11(水)●南方軍、占領地への軍政実施などを指示。
●米マッカーサー大将、コレヒドール島脱出。

12(木)●近衛師団、北部スマトラを占領。

13(金)●文部省、日本語の横書きは左からと決定。

14(土)●米兵一万人を乗せた英豪華船「クイーン・メリー号」、南大西洋で撃沈される。

15(日)●歌・舞踊で文化工作を行う南方芸能協会発足。

16(月)●翼賛会の戦意高揚玩具誌「ヨクサンマメグラフ」が一両日中に発売、と新聞に。

17(火)●内務省、政治結社の立憲養正会と農地制度改革同盟の結成不許可を決定。

18(水)●『軍神杉本中佐』(富田常雄著)が「陛下」を「陸下」と誤植、本版訂正処分となる。

19(木)●東京の新卒学童対象に「産業豆戦士壮行会」。

20(金)●東海道新幹線用の新丹那トンネル起工式。

21(土)●武道総合団体の大日本武徳会結成。
●出版文化協会、全出版物に発行承認制と決定。

22(日)●東京特設中等教員養成所を「戦争未亡人」三一人が卒業。

23(月)●商工省、市民用防毒マスクの最高価格を指定。

24(火)●東京府、アパートなどに初の家賃減額命令。

25(水)●内務省、新築家屋には防空設備が必要と指示。
●英印独立会談、開始。

26(木)●内村東大教授ら、分裂病への「電撃療法」発表。

27(金)●関門海底鉄道トンネル下り線が全区間貫通。
●比・マレー宛の郵便が内地と同額で取り扱い。

28(土)●安政五年以来の外国人永代借地権を完全撤廃。

29(日)●比で抗日人民軍フクバラハップ結成。

30(月)●国鉄、不要不急貨物の受け付けを停止。
●高等学校の修業年数が二年六ヵ月に短縮。

31(火)●女子の入坑労働禁止の緩和、期間延長。

▲バターン半島の米比軍、降伏(4月9日) 3ヵ月も続いた攻防戦もついに終止符。しかし日本軍は約7万人の捕虜を約60キロも歩かす「死の行進」で5000人を死亡させた。写真は投降した米軍兵士。

小柳次一

Popperfoto/ユニフォトプレス

CORBIS・BETTMANN/PPS

▲B25、東京初空襲(4月18日) ドゥーリトル中佐指揮の米機13機が飛来、1200キロも離れた空母「ホーネット」を発進した爆撃機(写真上)に攻撃された日本の衝撃は大きかった。下は艦上の中佐。

◀ビルマのエナンジョン油田も確保(4月17日) 第33師団佐久間連隊が奇襲作戦を敢行し(写真)、ほぼ無傷のまま油田を手に入れることに成功した。

▶南京政府主席の汪兆銘「清郷地区」を視察(4月16日) 日本軍と結び、解放区撲滅の清郷工作を進めてきた蘇州・無錫両地区を2日間でまわった。写真は蘇州での一行。

朝日新聞社

▼尾崎行雄、不敬罪(4月23日) 盟友の応援演説中(写真)に「3代で没落する皇帝が多い」と述べたため翌日起訴。30日の総選挙は政府主導の「翼賛選挙」となり、露骨な選挙干渉が行われた。

尾崎行雄記念館提供

昭和17年4月

1(水) ●配電統制令により九配電会社開業。 ●国鉄運賃、電信・電話料金など値上げ。 ●映画配給社、全国一元配給の業務開始。 ●小津安二郎監督「父ありき」封切。
2(木) ●米西海岸在住日本人一五万人の内陸移住開始。
3(金) ●マレーで盗賊団率いた「ハリマオ」こと谷豊を靖国神社に合祀、と新聞に。
4(土) ●国際赤十字社代表、香川県の善通寺俘虜収容所の待遇は良好と英に報告。
5(日) ●機動部隊、インド洋に進出しコロンボを空襲。
6(月) ●翼賛政治体制協議会(翼協)、衆院選推薦候補者四六六人を決定。
7(火) ●文部省が女子青年団員の標準服制定と新聞に。
8(水) ●大日本体育会設立。各運動団体は傘下部会に。
9(木) ●バターン半島の米比軍、降伏。
10(金) ●上野公園で第一回桜魂祭。「大東亜桜」を植樹。
11(土) ●ボルネオ産原油の初の油槽船が横浜に入港。
12(日) ●東北地方で日本初の天気の長期予報開始。
13(月) ●高村光太郎らに第一回帝国芸術院賞と決定。
14(火) ●飲食店組合が大詔奉戴日の自粛を転換、積極営業して売り上げで国債購入と申し合わせ。
15(水) ●逓信省、アルゼンチンとの写真電送開始。
16(木) ●山村聰・山形勲らの「文化座」が第一回公演。
17(金) ●日本放送協会、アナウンサーを放送員と改称。
18(土) ●米B25、東京・名古屋など本土を初空襲。
19(日) ●マッカーサー、西南太平洋連合軍司令官に。
20(月) ●五月からパン類の切符配給制実施と決定。 ●ブラジル・パラ州のアマゾン川流域日本人開拓地を州政府が接収し米に譲渡と判明。
21(火) ●蒙古連合自治政府主席の徳王、「満州国建国十周年」祝賀で訪満。
22(水) ●生保各社、空襲による事故に無条件で保険金を全額支払うと申し合わせ。
23(木) ●靖国神社臨時大祭。一万五〇一七人を合祀。
24(金) ●尾崎行雄、選挙演説に関し不敬罪容疑で起訴。
25(土) ●東部軍司令部、不時着した米軍機の残骸を本土空襲時の撃墜機と偽り公開。
26(日) ●ドイツ国会、ヒトラーへの全権付与を可決。
27(月) ●総選挙の棄権防止に官吏の遅刻・早退を許可。
28(火) ●空襲警報時は大相撲夏場所興行中止と決定。
29(水) ●新交響楽団が改組し、日本交響楽団発足。
30(木) ●第二一回総選挙(翼協推薦候補が圧勝)。 ●大本営、本土空襲への報復のため、中国の航空基地を破壊する浙贛作戦発令。

証言・あの日この日
徳川夢声(48)

5月25日(月) 〈昨日はこの部屋の外に向つた窓には、女学生が密集していた。長谷川を見るためであろう。十六七の少女たちなので、あまりエゲツない感じはしない。ただもう呆然として、この偶像を見とれているという態。あわれにもいじらしい〉(徳川夢声『夢声戦争日記』)

戦争中にだって、追っかけギャルはいる。長谷川というのは、もちろん、当時の人気スター長谷川一夫。場所は世田谷、東宝撮影所の楽屋。全然相手にしていないふりをしながら、長谷川も、彼女たちの視線を意識している。〈湯殿から出て来ると、上半身を裸体にして、むつちりと肥つた乳のあたりを、堂々と見せていた。大サービスである。少女たちは、恐らく一生涯、このまぼろしに捕えられてしまうであろう。孔雀が羽根を拡げて見せたわけだ〉。 (坪内祐三)

毎日新聞社

▲仏具・梵鐘など金属類強制回収(5月9日) 工場・商店・劇場・旅館などの指定施設と銅・鉄の保有量が多い神社・寺院などが対象。9月までを特別回収期間とし、その間に供出させた。写真は学校のストーブを供出する東京・富ケ谷国民学校の生徒たち。

東京動物園協会提供

▶上野動物園にヒョウの「八紘」デビュー(5月30日) 前年春、中国で生まれたばかりで捕らえられ、華中派遣軍第6884部隊のマスコットになっていたヒョウが寄贈され、話題になった。

▼コレヒドール島の米軍降伏(5月7日) バターン半島の激闘に続き、日本軍は最後のフィリピン攻略戦にのぞんだ。コンクリートで固めた米軍地下要塞が火炎放射器を含む猛爆に耐えきれず、ついに陥落した。

朝日新聞社

▶高松宮、満州国訪問(5月28日) 建国10周年を祝うため、大連経由で新京(現・長春)に到着した。31日には皇帝・溥儀と興仁大路で観兵式にのぞんだ(写真左が溥儀)。

▼議員をめざす男女ノ川(5月) 横綱時代に早大政経学科聴講生になり、5月2日に断髪式を終えると、巨体に学生服を着て学校に通った。写真は早慶戦を観戦する元横綱。

朝日新聞社

朝日新聞社

昭和17年5月

1(金) ●第一八師団、ビルマのマンダレーを占領。 ●東京横浜電鉄、京浜電気鉄道と小田原急行電鉄を合併し、東京急行電鉄と改名。
2(土) ●インドネシアで年号に「皇紀」使用と布告。
3(日) ●東京・中野区で「赤ちゃん審査会」開催。
4(月) ●日本馬改良のため豪州馬一三〇〇頭を移送。
5(火) ●翼賛政治体制協議会、解散。
6(水) ●京浜の百貨店が米穀通帳での石鹸販売始める。
7(木) ●第四師団侵攻でコレヒドール島の米軍降伏。 ●珊瑚海海戦で日米機動部隊が初の航空戦。
8(金) ●閣議、朝鮮でも徴兵制施行と決定。
9(土) ●寺院の仏具や梵鐘などに強制供出命令。
10(日) ●ミンダナオ島の米軍、第一四軍に降伏。
11(月) ●東京中央劇場で「未完成交響曲」など欧州名画特薦の上映開始。
12(火) ●前月脱獄したビルマ元首相バモオを、日本軍憲兵隊が「救出」。
13(水) ●四月の預金増は一億六〇〇〇万円の新記録。
14(木) ●阪東妻三郎・片岡千恵蔵・市川右太衛門・嵐寛寿郎主演「維新の曲」封切。
15(金) ●中国派遣軍、独断で浙贛作戦を開始。
16(土) ●警視庁、空襲警報発令中の買い出しを禁止。 ●ゾルゲ事件(16年10月)の記事解禁。
17(日) ●東京の井之頭公園に自然文化園が開園。
18(月) ●大本営、南太平洋での米豪遮断作戦を発令。
19(火) ●大日本婦人会、和洋・夏冬兼用の会服制定。
20(水) ●翼賛政治会(総裁・阿部信行陸軍大将)創立。
21(木) ●津田左右吉、出版法違反(15年3月起訴)で執行猶予つき有罪判決。
22(金) ●隼戦闘隊として名を馳せた加藤建夫中佐、ビルマで英機迎撃中に戦死。「空の軍神」となる。
23(土) ●大本営、ハワイ上陸作戦の訓練を指示。
24(日) ●プロ野球名古屋—大洋戦、延長二八回で日没引き分け。試合時間三時間四七分。
25(月) ●大蔵省、空襲に備え戦争保険料率を引き下げ。
26(火) ●日本文学報国会(会長・徳富蘇峰)設立。 ●チャーチルとモロトフ、英ソ二〇年間同盟条約調印(戦後の共同行動、内政不干渉など)。
27(水) ●連合艦隊が広島湾を出港。ミッドウェー作戦開始(艦船三五〇隻、飛行機一〇〇〇機)。
28(木) ●愛媛県で在日朝鮮女性を対象に母親学級開設。
29(金) ●小磯国昭陸軍大将、「朝鮮総督」に就任。
30(土) ●英空軍、独ケルン市を夜間無差別爆撃。
31(日) ●関門海底国道トンネルの貫通式挙行。

杉野学園ドレスメーカー学院提供

▲戦時のお洒落（6月）東京・銀座を歩くドレスメーカー学院女子学生。制服の下はニッカーボッカーで、伸ばせば緊急時にも対応できるスラックスになった。

▲藤原義江の歌劇「ファウスト」（6月29日）日本合唱団（旧ヴォーカル・フォア）が創立15周年記念に7月1日まで歌舞伎座で上演。藤原はファウストを演じた。管弦楽は東京交響楽団。

毎日新聞社

▶芸能人・力士親善野球大会（6月16日）ミッドウェー海戦での敗北は伏せられ、戦勝気分を反映したような野球が後楽園球場で行われた。背広姿が横山エンタツ、腕組みが柳家金語楼。

毎日新聞社

◀日本占領下のジャワ島（6月）コレヒドールを陥落させ、日本は東南アジア全域を支配下におく。スラバヤ（ジャワ）の商店「ニッポン屋」の日本文字の看板。

朝日新聞社

▼マニラで占領記念観兵式（6月3日）ルネタ広場を中心とする大通りに整列したバターン、コレヒドール攻略をはたした精鋭部隊を、馬上の司令官・本間雅晴中将（写真中央）が閲兵した。

毎日新聞社

▼日米交換の在留邦人、故国へ（6月26日）野村・来栖両大使ら日本人1421人はまずウェストバージニア州に集結（写真）、東アフリカで米人と交換の後、「浅間丸」で横浜へ向かった。帰国は8月20日。

昭和17年6月

1（月）●全国一斉に乳幼児の体力検査実施
●シンガポールで日本語普及週間開始

2（火）●米から中国国民政府への武器貸与協定調印

3（水）●婦人簡易服装研究会が発足。

4（木）●ミッドウェー作戦主力の南雲部隊を米軍発見

5（金）●ミッドウェー海戦、空母四隻などを失う惨敗

6（土）●日本放送協会「戦時生活相談」放送開始。

7（日）●安芸ノ海と照国、横綱に同時昇進。

8（月）●一等一〇〇〇円の割増金つきの切手債券「弾丸切手」発売。

9（火）●台湾総督府、志願兵合格者を発表。四二万人から一〇二〇人を選抜。
●本田実上等兵、手製望遠鏡で新彗星発見。

10（水）●「ミッドウェーで米空母二隻撃沈」と大本営。

11（木）●ワシントンで米ソ相互援助条約調印。

12（金）●理研が前線兵士を悩ませる南京虫の特効薬開発、と新聞に。

13（土）●大政翼賛会と傘下六団体が改組後の初会合。

14（日）●東北・新潟から満州青少年義勇団の花嫁候補五四人が訓練所入所のため上京。

15（月）●全国の工場で「産業豆戦士補導週間」始まる。

16（火）●川口市でパラチフス患者一〇一人を隔離。

17（水）●華道協会が海軍に一〇万瓶分の花代を節約し献金運動を行うと決議。

18（木）●東京で窓ガラス補強を点検する防空検査実施。
●第二次米英戦争指導会議（～26日）。

19（金）●貯蓄強調週間始まる。目標額は二三〇億円。

20（土）●文部省、心身鍛練目的以外の夏休み中の旅行は二泊三日以内にと通達。

21（日）●横須賀鎮守府、不明の演習用魚雷探索に懸賞広告。一ヵ月以内発見は賞金一〇〇円。

22（月）●米、ハワイ在住米人に本土引揚げを勧告。

23（火）●横山隆一の漫画「ジャバのフクチャン」が朝日新聞で連載開始。

24（水）●二三〇億貯蓄完遂標語発表。一等は「噴き出る汗から湧き出る貯蓄」。

25（木）●グルー大使らの第一次日米交換船、横浜出港。

26（金）●日本基督教団信徒、九六人が検挙される。

27（土）●日本宣伝技術家協会が第一回総会開催。

28（日）●ビルマの反英派が東亜青年連盟支部を結成。

29（月）●満鉄調査部の中西功ら上海反戦グループ検挙。
●ガス超過使用の飲食店などに無期供給停止。

30（火）●独伊軍（ロンメル指揮）、北アフリカのエル・アラメインに到達。

20世紀博物館
パイロット筆記具資料館
戦地でも必需品だった万年筆の持つ〝意味〟を考える

神奈川・平塚市

桑原茂夫

筆記具は、外へ出る時に、欠かすことのできない必需品である。戦時中といえどもそのことに変わりはなかった。たとえば、戦地にいる兵士にとって、留守宅など外界とのコミュニケーションを保つのに、そして自分を取り戻すのに、筆記具は不可欠の道具だった。今でははかり知れないほど、筆記具の持つ意味は大きかったのである。

万年筆が、戦時中の厳しい統制下でも生産・販売されていた事実をこの「パイロット筆記具資料館」で知り、筆記具の重要性に思いいたった。ものがあり余り、使い捨てがよしとされる時代には、忘れられがちなことだ。

そういえば、少なくとも昭和三〇年代までは、中学校などへの進学祝いに万年筆は定番だった。いよいよ外へ出て一丁前にことをなさんとする時に必要な、つまりは大人の雰囲気が漂う道具だったからだ。万年筆を贈られることは、ワンステップ大人になった証を与えられることでもあった。

実際、万年筆という筆記具には、そういう役割をはたすにふさわしい質がそなわっていた。十分インクを補給できる構造や、蓄えたインクを少しずつ紙の上に送り出す絶妙のシステム、そしていつも身につけていられる機能的なデザイン。小ぶりながらも高級感のある道具だった。

しかし、このような万年筆も、昭和四〇年頃をピークに、使い捨て文化が定着していくにしたがって、その需要が下降線をたどることになる。それとともに何が起こったか。筆記具資料館副館長の小澤正臣さんによると、スラスラ書くより、ガリガリと力を入れて書くようになったという。

これでは万年筆も浮かばれない。万年筆開発の歴史は、インクがボタ落ちせずスラスラ書ける〝書き心地〟のよさを求めた歴史だったのだから。

毛細管現象を利用して、現在の万年筆の基本形を作ったのは、アメリカ人ウォーターマンで、これが一八八四年（明治一七）のこと。そして書きやすい金ペンの先端に、特殊な球をつけて、書きやすさと耐久性を飛躍的に伸ばしたのがパイロットの前身、並木製作所で、これが大正七年。つまり、万年筆の歴史はそれほど古いものではない。その間、〝書き心地〟のよさを熱心に追求してきたわけだ。

たとえば、この資料館の入り口付近のケースに並べられている、蒔絵入りの万年筆も、その過程で生まれたもの。

万年筆の鞘や軸に、もっぱらエボナイトが使われていた時代、そのエボナイトに漆を塗ったら、見違えるような、漆黒の万年筆ができた。しかも手にしっくりなじむ。書きやすいのである。そこで漆を使ったデザインを考え、蒔絵にたどり着いたというわけだ。

使い捨て文化にどっぷりつかった今、あくまでも〝書き心地〟のよさを追求してきた万年筆にあらためて目を向け、手に取ってみるのもわるくはない話だ。

▲昭和30年代を代表するパイロットの万年筆。いちばん奥がスーパー万年筆（30年）。　平野美津子

◀最高級の蒔絵万年筆。中央の2本は、皇太子ご成婚記念（左）と、昭和天皇即位記念（右）に作られたもの。

◀古今東西の歴史的筆記具を含む、収蔵点数一万五〇〇〇本の本格的博物館だ。

▲万年筆にとってインクも重要な仲間だ。戦時中には固形インクも開発された（手前左の箱）。中央奥に見えるインクは、昭和30年代に圧倒的なシェアを誇っていたもの。

●パイロット筆記具資料館
神奈川県平塚市西八幡一―四―三パイロット平塚工場内
☎〇四六三―三五―八〇四二
JR平塚駅北口バス⑩総合公園下車、徒歩一分
開館時間＝九時三〇分～一二時、一三時～一六時
休館日＝土・日・祝日、年末年始、夏期休暇
入場無料（団体は要連絡）

ベストセラー

真珠湾の興奮下に着実な業績 柳田國男『こども風土記』

前年一二月八日の真珠湾攻撃がもたらした影響は大きく、詩誌「四季」一月号の編集後記に詩人・丸山薫が「われら日本に生れて空前の欣ばしきときに際会した……世界史を画する重大な時機にあつて、われらは詩を書くことに戦場にはせ向ふがごとき光栄を感じる」と記したほど、興奮に包まれていたようだ。

しかし、同時に出版活動は強い規制を受けるようになり、刊行を停止した本も少なからずあった。

そんな状況の中でも着実な仕事ぶりを見せたのが、柳田國男の『こども風土記』である。朝日新聞に連載していた、子ども遊びについての考察を、初山滋のさし絵入りでまとめたもの。B5判で一〇〇ジほどの薄い本だったが、中身は濃かった。その序文に、世代を超えて語り継ぐことの意義を説きながら、そのために「時の古今に亘つた国語の統一といふことが、もう考えられてもよかつたのではないか……これを機縁として改めて文章の書き方を学びたいと思ふ」と記しているが、その日付は昭和一六年一二月一四日。真珠湾からわずか一週間たらず。こういう本もあったのだ。

また、斎藤茂吉の『伊藤左千夫』は、アララギ派の歌人・伊藤左千夫の歌と評論について詳述したもの。正岡子規の門下生で、『万葉集』に"日本民族の思想の根源"を求めた伊藤左千夫が浮かび上がってくる。そして昭和一六年一一月付の後書きには「先師は、明治三七年に《国こぞりて心ひとつとふるひたつ軍のまへに火も水もなく》と歌はれたのであつたから、今この情勢に長齢を保つて居られたなら、涙をふるつて切歯扼腕したまうたことであらう」と記されている。

根岸信の『華僑襍記』は、日本が進攻しようとしている南方で、大きな力を持っている華僑をテーマにした本。華僑を敵にまわすのではなく、味方につけることが大事としたうえで、その実態を細かく記したもの。当事者にとっては貴重なデータが詰まっている本だった。

▶『華僑襍記』(朝日新聞社、一円)

▶『伊藤左千夫』(中央公論社、四円五〇銭)

▲『こども風土記』(朝日新聞社、1円60銭)

スターと名場面

討ち入りシーンなしで完結「元禄忠臣蔵」のハイライト

前年の前篇に引き続いて溝口健二監督の「元禄忠臣蔵」後篇が公開された。後篇では、いかにして"天下のご政道"を乱すことなく、つまり合法的に吉良上野介を討ち取るか、味方をも欺きながら準備を進めた大石内蔵助（河原崎長十郎）の苦悩と、その周辺の誤解や忠誠ぶりが描かれている。ところで忠臣蔵といえば討ち入りがクライマックスと相場が決まっているようなものだが、この映画に討ち入りシーンはない。しかし、首尾よく吉良の首を討ち取って、浅野内匠頭の墓前に報告するシーンと、やがて自害していくシーンが克明に描かれ、独特の忠臣蔵映画になった。

小津安二郎は「父ありき」を撮った。父と子が離れ離れになっても、子はくじけず、父もまた毅然とした生き方を貫くという話で、戦時下のモラルを具体的に描いた映画でもあった。

また山本嘉次郎監督の「ハワイ・マレー沖海戦」は斬新な映画技術で人々を驚かせた。円谷英二の特殊撮影が臨場感あふれる、真珠湾攻撃シーンを作り出したのだ。物語は、真珠湾までのプロセスを、若い海軍兵士を主人公に描いたもの。その姉役で原節子が出演しているが、彼女の存在感は大きく、皮肉にも主人公の印象を薄めかねなかった。

この年、ほかに次のような映画が公開された。かっこ内はおもな出演者。「待って居た男」（長谷川一夫、山田五十鈴）／「新雪」（水島道太郎、月丘夢路）／「鞍馬天狗」（嵐寛寿郎）／「マレー戦記（ドキュメンタリー）」

松竹提供

▲大石内蔵助側に立つ徳川綱豊（左・市川右太衛門）は焦る富森（右・中村翫右衛門）をたしなめる。

東宝提供

▲ハワイが近づくにしたがって艦隊の緊張は高まっていった。「ハワイ・マレー沖海戦」。

▼「父ありき」で、子どもの範となるような強い父親を演じた笠智衆（右）。

松竹提供

モノ語り'42

「陶製アイロン」「鶏足ぞうり」など 生活必需品にも"代用"ばやり

明治・大正・昭和戦争博物館提供

▲**代用品が当たり前の時代に**　この年5月から金属類回収令が実施され、家庭にある金属製品は供出しなければならなかった。それに代わるいわゆる"代用品"は必需品となったのである。アイロンのような、その名称からして本質的に鉄製であるべきものも、写真のような「陶製アイロン」にとって代わられたのである。中に熱湯を入れたところで、得られる熱は鉄の比ではなく、アイロンとしての機能ははなはだしく落ちていった。

▲**技術陣は好調を持続していた**　戦時中にあった乗りもののうち、重宝がられたものに自転車がある。町の中で便利なのはもちろんだが、戦地でも車が走れないようなところで、自転車は相当の力を発揮した。それで山間部の奥深くまで持ち運べないかと工夫されたのが「折り畳み自転車」。当時の技術レベルの高さをものがたる乗りものでもある。　自転車文化センター所蔵

▶**盤面遊戯がさかんになっていた**　子どもの遊びの中でも、双六やかるたなどの盤面遊戯や、写し絵、着せ替えなど、紙製の玩具を使ったものが多くなっていった。しかもそのモチーフはもっぱら戦争にかかわるもので、南方にまで地理的対象を広げたものや、"兵隊さん"の登場するものが圧倒的に多かった。この「大東亜の共栄双六」もその典型で、ほかにも「兵隊さんありがたう写し絵」や「慰問袋ごっこ」などがあった。
埼玉県平和資料館所蔵

◀**履きものにも代用品の材料を使用**　これは「鶏足（とりあし）ぞうり」と称されたしろもの。太平洋戦争が始まるとともに、肉類の輸入も止まり、政府は養鶏を奨励した。そして、食糧に供された後に残った足の皮が、ワニの皮に似ているところから、これでぞうりの表と側面をおおって皮製ぞうりにした。京阪地域のぞうり業者のアイディアによる戦時下商品である。
日本はきもの博物館所蔵

▼**こんな時でも売られていた常備薬**　慶長年間に端を発した伝統的な民間薬「宇津救命丸」は、戦時下でも健在だった（宇津権右衛門薬房＝現・宇津救命丸・1袋30銭）。もともと赤ちゃんの夜泣き・疳（かん）の虫によくきく薬として人気があったが、物資不足・食糧不足に加え、医療機関の体制も十分とは言えない時代だっただけに、赤ちゃんを無事に育てるために、大いに頼りになる常備薬と考えられていた。

▲**木製の玩具で遊ぶ**　盤面遊戯や紙製玩具がさかんだったとはいえ、人形や乗りものなどの立体的な玩具への興味が子どもたちから失われたわけではない。たとえば戦車の玩具である。攻守両面にわたって優れた能力を持つと信じられた戦車は、ブリキ製の玩具で人気を得ていたが、この年あたりを境に、「木製戦車」にとって代わられた。ゴムの反発力で、木片を弾丸のように飛ばす仕掛けも子どもたちを楽しませた。　埼玉県平和資料館所蔵

◀**タバコのパッケージも地味に**　タバコの中でも、明治37年に発売され、人気銘柄だった「チェリー」が、「桜」と名称変更されたのは昭和15年。この時はまだ、ピンクと紺色が組み合わさったデザインのパッケージだったが、この年3月、とうとうピンクの1色刷りパッケージに変わった。タバコのパッケージといえども"贅沢は敵"だったのである。10本入り25銭。　たばこと塩の博物館提供

人物クローズアップ

山下奉文（五六）

「イエスか、ノーか」と迫る猛将"マレーの虎"の実像

太平洋戦争史上有名なその会談が行われたのは、昭和一七年二月一五日午後七時。場所は、シンガポール島ブキテマ高地北部の、フォード自動車工場事務所の一室である。会談は二人の将軍によって行われた。一方は、後に"マレーの虎"と呼ばれる第二五軍司令官・山下奉文中将（五六）。一〇〇キロを超える巨漢で、顔は戦陣焼けで黒光りしていた。他方、正面に机をはさんで座るのは、マレー英軍司令官パーシバル中将（五四）。山下とは対照的に、五三キロという痩身で、しかも肌は透けるように白かった。「イエスか、ノーか」。この会談で山下は英軍に全面降伏を迫り、パーシバルを居丈高に威圧したとされる。傲岸不遜な"猛将"という山下のイメージはこの時に確立するが、しかし、それには二人の対照的な風貌が作用した。

▲停戦交渉に向かうパーシバル中将（右端）。白旗をかつぐのは通訳の将校（左端）。

山下奉文は、明治一八年一一月八日、高知県香美郡暁霞村大字白川（現・土佐山田町）生まれ。三八年陸士一八期、大正五年陸大卒。陸士同期には最後の陸相・阿南惟幾がいた。山下の転機は、昭和一一年の二・二六事件によって訪れた。山下は、昭和軍閥を統制派と二分した皇道派に属し、当時は陸軍省軍事調査委員長だったが、皇道派の総帥・真崎甚三郎に続くものとして、反乱軍将校たちに期待されていた。山下の真意も明らかに反乱軍を支持する側にあったが、その態度は風貌に似合わず慎重だった。悪く言えば、日和見的であるとさえ感じられた。事件後、陸軍の中枢部から皇道派が一掃された。山下も例にもれなかった。

山下が、第二五軍司令官に任命され、マレー・シンガポール攻略を担当することになったのは、一六年一一月のことである。シンガポール攻略を最終目標とする第二五軍の侵攻は、迅速をきわめた。一二月八日、佗見浩少将率いる第二三旅団が、真珠湾攻撃に先立つこと一時間五分前の午前二時一五分、マレー半島中東部のコタバルに上陸。続いて二五軍の主力がタイ領のシンゴラに、さらに安藤忠雄大佐率いる別働隊が同領パタニに上陸した。日本軍はマレー半島の東部と西部から、シンガポールに向かって快進撃を続けた。作戦の成否は進撃のスピードにかかっており、そのため歩兵は自転車で進撃。一七年一月三一日には、マレー半島先端のジョホールバルを占領した。

ここにひとつの逸話がある。陸軍には、作戦日程を記念日を基準にして決定するという習慣があり、作戦参謀の辻政信中佐（三九）は、シンガポール占領を一七年二月一一日の紀元節としていたが、山下はそれに不満を持った。山下にすれば、作戦はあくまで戦略・戦術の面から決定すべきものだった。山下は元来そういう人物だった。

その日、山下がパーシバルに迫った言葉は、実は誤解から生まれたものである。昭和史研究家の半藤一利氏によると、「あれは通訳がよくなくて、それでイエスなのかノーなのか確かめただけだったそうです。そばにいた情報参謀の杉田一次中佐から戦後聞いた話です。山下という人は誤解の多い人で、本当は大変合理的な考え方をする人だった」という。

山下に対する誤解は、日本軍へのマイナスイメージとして定着した。昭和一九年一〇月、山下は南方方面での劣勢を挽回すべく、その切り札としてフィリピンの第一四軍司令官に着任する。しかし、戦局は好転するはずもなく、二〇年九月三日、米軍に降伏した。調印の場には、パーシバルの顔もあった。山下が、戦犯としてマニラ郊外で処刑されたのは二一年二月二三日。シンガポール攻略から、ほぼ四年目のことであった。

▲降伏文書にサインするパーシバル。調印後、山下は立ち上がり、初めて握手の掌をさしのべた。

▲山下はパーシバルを見据え、「今夜10時に武器を捨てて降伏しなければ、シンガポール市内に夜襲を敢行する」と迫った。 石井幸之助

決定的瞬間

大気圏外への"夢"も「報復」兵器に V2ロケット、飛行実験に成功！

ベルリンの北、バルト海に面したペーネミュンデで行われていたことは、ヒトラーを含むごく少数のナチス幹部にしか知らされていなかった。

ペーネミュンデのロケット研究所は一九三六年に設立され、一九四五年まで、ロケット開発、実験場、イギリス攻撃の基地として使用された。

研究所が開設された翌年、当時二五歳のウェルナー・フォン・ブラウンはロケット開発の技術責任者として入所する。彼は一八歳の時からヘルマン・オーベルトが主宰する「ドイツ宇宙旅行協会」に参加し、友人と五五個のロケットを打ち上げ、そのうちの数個は一・六キロの高さにまで達するという快挙をなし遂げていた。ロケットへの情熱と才能は早くから開花していたのだ。

この若い才能を迎えた研究所は、軍事用液体ロケット、通称「V2ロケット」の研究開発に邁進した。V2の「V」はドイツ語で「報復（Vergeltung）」を意味し、ヒトラーがみずから名づけたものである。

ペーネミュンデの実験場は、上から見ると楕円の形をしており、建設中のサッカー場のように見える。一九四二年一〇月三日午後四時、その実験場で、ついにV2ロケットの発射が成功をおさめた。

それは、巨大な軀体を持ち上げて大気圏外までロケットを飛ばすという、ロシアの数学教師ツィオルコフスキー（一八五七～一九三五）以来、多くのロケット学者が研究を重ねてきた、まさに"夢"の実現する一瞬であった。しかし、この画期的な出来事は一行のニュースになることもなく、結果は新しい殺戮兵器としての完成を急がされただけであった。

V2は全長一四メートル、直径約一・七メートル、重さ一三トン（約一トンの弾頭を含む）という巨大なもので、射程距離は約三〇〇～三四〇キロ。打ち上げられると、発射後五五秒で高度二八キロに達し、その後、慣性で八二キロまで上昇して、落下弾道に入り、着弾時速はマッハ三の速度となる。

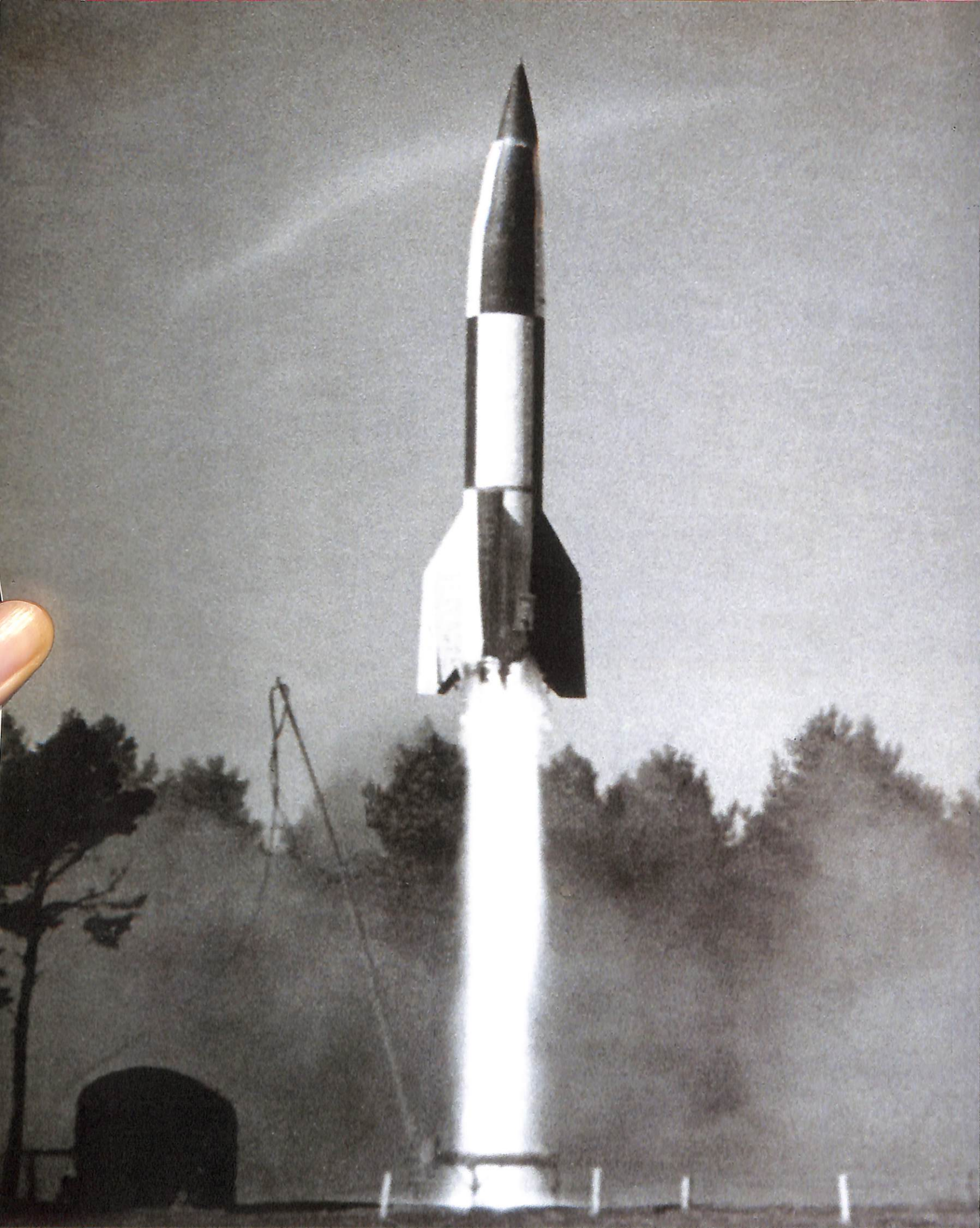
大気圏外から発熱しながら再突入してくるおそろしい兵器で、このV2を途中で阻止することは、当時の科学技術では不可能だった。

この実験に成功したドイツが、戦局を左右する新兵器としてV2に期待したのは当然だろう。しかし、V2が実用へと向かうにはさらに時間がかかり、実際に使用されたのは、ドイツの敗色が濃くなった一九四四年九月のことである。ヒトラーは、戦局を変えるためには「V2の生産量と大きさをともに一〇倍にする必要がある」と語ったという。

結局、V2は約三〇〇〇発が製造され、おもにイギリスに撃ちこまれた。ただし精度はかならずしもよくなく、イギリス本土に命中したものは約一〇五〇発。その被害は、イギリス全土で死傷者二万五〇〇〇人、ロンドンで破壊された建物は六万戸だった。それでも、突然、何の前触れもなく落下してくるV2は、イギリス人にとっては恐怖の的だった。半年早く完成していれば、歴史は少し書き替えられただろうと言われている。

一九四五年二月一七日、ソ連軍が間近に迫ったペーネミュンデの研究所は閉鎖され、ブラウンたち約一〇〇人の研究チームは南ドイツの山岳地方に連行された。秘密保持のため抹殺されるおそれもあったが、五月、ラジオがヒトラーの自殺を報じた日に、米軍に無事保護される。

フォン・ブラウンは戦後アメリカに移住し、第二の研究生活を送ることができた。やがて彼は、NASAの「アポロ計画」推進の中心となる。アメリカにとって、それは欧州での"最大の戦利品"であった。

▶ウェルナー・フォン・ブラウン（一九一二～七七）。「月へ飛ぶ」という"夢"を終生追い続けた。 PPS

▲ペーネミュンデから発射されたV2。飛行コースを記憶し、ジャイロスコープとドップラーレーダーで修正する誘導システムなど、最先端技術の結晶だった。 Black Star PPS

美の出会い

「清楚な」「素顔の」……〝薄化粧〟を要求された資生堂の広告デザイン

日本が太平洋戦争に突入した翌年の昭和一七年、資生堂宣伝普及部（一六年に意匠部を改称）のデザイナー・山名文夫（四五）は、洗顔用「トリアノンクリーム」の広告デザインを手がけていた。伏し目がちにクリームを指に取り、淡く紅のひかれた口元をかすかにほころばせる若い女性……。その表情は、「いつも美しくありたい」という、女性の永遠の願いをものがたっているかのようだ。この〝表情〟を、図案風の表現により一色版のオフセット印刷で出し切ることに、山名は並々ならぬ情熱を傾けた。しかし、山名にとって出来映えはけっして満足のいくものではなかった。彼の繊細な美意識とスケッチを、化粧品広告というメディアで表現する道は、ほとんど閉ざされてしまったのである。

▲資生堂の広報誌「花椿」（昭和14年10月号）の表紙。イラストは山名文夫。

この頃すでに、用紙不足や印刷の統制から広告は色も写真も使えなくなり、文字中心のものにならざるをえない状況だった。そしてコピーも「清楚な」「素顔の」「奥床しい」などの、華美を戒め薄化粧をイメージさせるものになっていった。昭和四年、資生堂に入社し、パッケージ、広報誌、新聞広告などに〝山名調〟と呼ばれるデザインを作り上げ、資生堂の美意識と感性の具現者と言われた山名は、自著『体験的デザイン史』の中で記している。

「化粧品の製造は統制に次ぐ統制で極端に窮屈になり、広告活動も火が消えたようになった。（略）まったくの話が化粧品と菓子と、つまり女子供相手のメーカーは真先に統制の波をかぶる。戦時生活に不要不急の企業だというのであろう」

制作室は暇になったが、かえってひっそりした分、気が散ることもなく彼はシャンプーやクリームの広告制作に没頭した。こういう時期だからこそしっかりとした技術を身につけなければならないと気を引き締めたのである。一七年五月に彼は記している。「作家はこの機会（戦争）を十分に身をもって戦いとらねばならない。これは義務であり次の世紀に備える技術の蓄積である。今あらゆる機会をためらうことなくつかみ物臭さになってはならない。次の日を棄権するかしないかということにもなるのであるから」（「ぷれすあると」五五号）

▶李香蘭をモデルにしたポスター（昭和一六年）。国内向けではなく、大陸向けに作られた。

▲昭和17年に発売された「資生堂トリアノンクリーム」。

しかし、資生堂の中で山名の活躍する場はなくなっていった。そして、一八年、生涯資生堂の人間でいるつもりだった彼は、退職を言い渡された。以後、山名は報道技術研究会に身を置き、国策宣伝に従事することになる。

化粧品の製造販売も困難になると、業者の中には、軍需産業に切り替えるところも出てきたが、資生堂は「スキンローション」「ホルモリン」などの製造をなんとか続けていた。

また、口紅などは軍需工場で働く女子挺身隊の女性たちに支給される、軍用品として納めたのである。細々とながらも生産を続けたことで、資生堂は戦後また復活することができた。

山名は昭和二三年に復職し、二六年に再発売された一連の「ドルックス化粧品」など、戦後の資生堂復興期のアートワークを手がけることになる。

◀「資生堂トリアノンクリーム」の雑誌広告（昭和一七年）。良質な化粧用石鹸がなくなったため、洗顔用のクリームでも需要は多かった。

資生堂企業資料館提供（五点とも）

「現場」を歩く 下関

関門トンネル開通で始まった“通過都市”の憂鬱

山本徹美

▼関門海峡を結ぶトンネルには現在、鉄道トンネルのほか、昭和33年に開通した国道トンネル、50年開通の新幹線の新関門トンネルがある。

◀17年5月31日に貫通した関門国道トンネル。写真は、通り初めをする湯沢三千男内相。

▲関門鉄道トンネルの殉職碑。下関側のトンネル入り口付近にあるが、普段は近寄れない。

昭和一七年三月二七日、関門鉄道トンネルの下り線全区間が貫通した。試掘坑道に着手した一一年一〇月から六年の歳月を経て、海底部延長一一四〇メートルを含む延長三六一四メートルの海底トンネルによって本州と九州がつながったのである。

同年四月一二日には竣工修祓式が行われ、工事関係者五五三人が関門トンネル内を祝賀行進した。当時、鉄道省下関改良事務所総務部に勤務していた木原好幸氏（現・八六歳）もその列に加わった。

「うれしいには違いなかったが、大喜びはできませんでした。なにしろ予算を大幅に上回っており、心苦しくて」

一六一二万円の予算に対して下り線だけで一八一三万円かかり、翌年一一月に貫通した上り線をあわせると総工費は三九二八万円に達した。これは国家予算の約一〇分の一に相当する。その背景には、戦時陸運非常体制がある。九州で生産される石炭、鉄鋼などを本州へすみやかに運搬しようというものだ。戦後はここが大動脈となり、九州に経済発展をもたらした。反面、宿場町あるいは港町として栄えてきた下関は新たな選択を迫られる。

関門トンネルの下関側「玄関口」は、弟子待という場所だが、ここにある下関市役所彦島支所の松崎忠男支所長が指摘する。

「通過都市と化して衰退する危惧を持つ市民は多い。それはトンネルの計画当初からあった」

関門トンネル構想は明治一九年、博多商業会議所が帝国議会に建議したのを契機とし、その後もどちらかといえば九州側の方が積極的だった。

「ふぐ料理はもちろん商業施設シーモールや、海峡ゆめタワー、巌流島の観光化など官民一体となって客足を止めようと努力していますが……」（松崎氏）

客離れの現実は、現在と開通時の人口動態をみると、明らか。旧下関市内が四万人近く減っているのに対して福岡市はなんと三・五倍増の一二六万人である。

最先端技術を駆使

トンネル掘削には潜函工法、圧気工法、シールド工法などが用いられた。シールドとは円筒形をした鉄鋼製の潜水艦状掘削機で、この中に作業員が入って掘り進む。シールド内には圧縮空気が充塡してあり、潜水病を防ぐため減圧対策がほどこされた。

工事に使用された鋼材は約二万トン、セメント六万九〇〇〇トン。木原氏が言う。

「国家機密に相当する工事で、同時に最先端技術を駆使していた。情報もれを防ぐため、私たち工事関係者は話せない事柄が多かった。労働者を募るにも、身元調査など慎重に行われたと聞いています」

工事従事者は延べ三四七万人。うち犠牲者は三二人だった。殉職碑が関門トンネルの下関側にあると聞き、行ってみた。

碑は、線路の「中州」にあった。柵がしてあり、たえず電車が通るため近寄ることはできない。花崗岩を積み重ねただけのシンプルな碑の前に煤けたカップ酒の空き瓶がひとつ、供えてあった。

1億人が観た映画「ハワイ・マレー沖海戦」 円谷英二の“特撮”が大ヒット作を生んだ!

▲東宝第二撮影所に建造された、500分の1の真珠湾の大セット。日本軍の奇襲を受け、米艦船が次々と炎上する。水柱は火薬を爆発させて作られた。　東宝／映画文化協会提供

昭和一七年一二月三日、東宝映画「ハワイ・マレー沖海戦」（山本嘉次郎監督）が、日米開戦一周年を記念して封切られた。大本営海軍報道部の企画のもと、戦意高揚映画として制作されたこの一大スペクタクルは、円谷英二の特撮が評判を呼び、戦争映画史上空前の大ヒットとなった。

一億人が酔いしれた一大スペクタクル

「なにしろ痛快でした。敵の軍艦がバカーンと沈むんですからね。あの迫力にはただ目を丸くするばかりで、生つばを飲むということを初めて知りました。私が観たのは、東京・有楽町の日本劇場。ワンブロックに行列ができ、もちろん場内は超満員で、あまりの面白さにその日は二回続けて観てしまいましたよ」

こう語るのは、当時旧制中学の四年だった㈳映画文化協会理事の森本暢氏だ。

封切の半年も前からラジオ、新聞でPRが展開され、「我海軍航空部隊の烈々たる攻撃精神が見事に描き出された」との理由から、文部省の推薦を受けたこの映画は、一二月三日の封切と同時に一大センセーションを巻き起こした。

組織的な観客動員を押し進めるために、東京国民映画普及会が発足したのは封切当日のこと。一二月三日から一〇日まで、午前中を利用して国民学校の児童に観覧を実施、三ヵ月間で一七四万三三一一人を動員した。また、日米開戦記念日にあたる八日には全国二二都市の封切館で午前中無料で公開するなど、国民映画参加作品としての積極的な興行が展開

▲鉄製大クレーンを使っての撮影。上空の日本機から見た視点の移動には、このクレーンに乗せたカメラがフル稼動した。　東宝／東宝アド提供

されていった。

後援にあたった海軍省も、全国の学生のほか、軍需工場や婦人会などを映画鑑賞に動員、さらには満州国やインドネシアなど日本占領地でも上映され、約一億人もの人々が、この映画を観たと言われている。

記録映画さながら迫真の〝特撮技術〟

このドラマは、二人の若者を主人公に、予科練（海軍飛行予科練習生）で猛訓練を重ね、一人前の航空兵として出陣していく過程をハワイのアメリカ太平洋艦隊、マレー沖のイギリス東洋艦隊を潰滅させた日本海軍の勇猛ぶりとともに記録映画さながらに再現したものである。

「ハワイ・マレー沖海戦」は、封切わずか八日間で、一一五万円という記録的な興行成績をあげ、「キネマ旬報」（当時は「映画旬報」と改称）の昭和一七年度ベストワンに選ばれたが、その背景には、円谷英二（四一）をリーダーとする特撮技術陣の存在があった。

その円谷が、報道部の海軍少佐・浜田昇一に呼び出され、海戦場面での特撮の研究を依頼されたのは、封切一年前の一二月八日、ちょうど日米開戦の当日であった。ただし海軍は〝軍機〟をたてに、実物の空母を見せるどころか、その写真さえも提供しなかった。

そこでまず作られたのが、攻撃部隊が撮影してきた航空写真をもとにした精密な真珠湾の地図である。

そして魚雷や爆弾によって噴き上がる水柱が最も効果をあげるように軍艦の大きさが割り出され、その結果、縮尺は五〇〇分の一に設定された。それは、大小の波や波頭の効果を出すために、繰り返し実験した結論でもあった。

できあがった真珠湾は第二撮影所（現在の世田谷・大蔵ランド）の庭を使用し、敷地約一八〇〇坪（約五九四〇平方メートル）、海の部分だけでも五〇〇坪（約一六五〇平方メートル）、四万円余りの建造費をかけた巨大な屋外セットであった。

圧巻は、大量の艦船や飛行機のミニチュアである。海軍が非協力的な中、円谷はかつて米誌「ライフ」に載っていたアメリカの空母を参考に日本軍の空母を創作、円谷が最も得意とした工作技術がここでいかんなく発揮された。

そして日本機の編隊が山陰から飛行場に接近するシーンでは、クレーンの先にピアノ線でミニチュアを吊り下げ、クレーンとカメラを固定し、バックの山肌を動かすというテクニックが用いられるなど、画面にダイナミックな動きを与えることに成功した。

まさに円谷自身が語っているように「見ている人に臨場感を与え、写し出される人と一体になって目的に向かっていく気持ちになってもらうために作った」映画として多くの人々に感銘を与えることになったのである。

映画界はすでに昭和一五年から情報局の指導下におかれ、一六年八月にはフィルムの割当を減らされるとともに、映画産業の規模縮小を提示された。そのため、映画制作会社は、東宝、松竹、大映の三社に統合され、制作本数も三社で月六本、プリントは三〇本程度に制限されていた。また、配給は新設された㈳映画配給社に一本化され、全国二三五〇の映画館を紅白の二系統にして、劇映画・国策文化映画、ニュース映画を各一本ずつ組み合わせ、主要な地区から順次上映するという方式に変えられるという状況下にあった。

しかし、こうした統制が強まる中で、観客を興奮の渦に巻きこんだ「ハワイ・マレー沖海戦」の特撮技術は、「円谷研究所」（昭和二三年設立）によって、昭和二九年の「ゴジラ」（東宝映画、本多猪四郎監督）など、戦後の特撮映画全盛期へと引き継がれていったのである。

◀昭和一六年頃の円谷英二（左端）。映画各社のカメラマン仲間と、撮影所でのスナップ。　竹内博

◀真珠湾の大セットの製作には、一二月八日当日の未明の太陽の位置や光線の状態まで考慮された。　東宝／映画文化協会提供

◀艦船や飛行機のミニチュアは、遠景用・近景用と、必要に応じて大量の数が作られた。

◀「アサヒグラフ」17年11月25日号に掲載された1ページ広告。大河内伝次郎、原節子らスターの名前も並ぶ。

フォト＋日録で再現する365日

毎日新聞社

▲楽壇総動員で演奏会（7月7日）東京日日新聞社が主催、日中戦争5周年を記念し、両国国技館に陸・海軍軍楽隊や民間の楽団などが参集。新聞はこの様子を「音楽報国精神」と華々しく報道した。

朝日新聞社

▲石油資源の確保と増産（7月）蘭印作戦には「石油部隊」をともなっていた。製油所を占領・確保すると、彼らが施設の機能を復活させた。ボルネオ島サンガサンガ油田で。

毎日新聞社

▲初の全国高等学校体育大会（7月24日）文部省・大日本学徒体育振興会共催で神宮外苑競技場などで31日まで開催。これまで別々に開かれていた競技大会が初めて一堂に会した。写真は開会式。東条首相が壇上で訓辞。

▼民間自動車を消防車兼用に（7月3日）空襲があっても逃げずに火を消せという「民防空」が主張されたご時世。警視庁は消防車不足を見越して消防車兼用自動車を試作させ、東京・大手町の堀端でテストした。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲女子のなぎなた訓練（7月3日）昭和14年に結成された宮城外苑整備事業にたずさわる肇国奉仕隊小学部の訓練風景。この頃、国民学校初等科5年生以上の女子の体錬科でも「奉公精神」の鍛錬に有効であるとして採用されていた。

毎日新聞社

◀日英交換船に乗る在日外国人（7月30日）英国および英領の在留邦人との交換を実施するため、454人が「竜田丸」で横浜港を出発、ポルトガル領東アフリカのロレンソマルケス港に向かった。

昭和17年7月

1（水）●獅子文六「海軍」、朝日新聞で連載開始。
●東京市バス、人手不足で無車掌バスを運行。
2（木）●木材の大規模闇取り引きで東京の業者検挙。
3（金）●レコード「聖戦記録大東亜戦史」発売。
4（土）●警視庁経済警察部、値上がりのため料理の新価格決定。とんカツは八〇銭。
5（日）●タイとビルマを結ぶ泰緬連接鉄道の建設開始。
6（月）●東京府、七月のビール配給を一世帯四本に。
7（火）●翼賛会、防諜解説書『武器なき戦い』を配布。
8（水）●海軍物理懇談会の初会合で原爆に関し協議。
9（木）●預金者貯蓄組合制度、創設。
10（金）●国民優生連盟、出産祝い金二〇円供与と決定。
11（土）●大本営、南太平洋進攻作戦を中止。
12（日）●朝日新聞社、全国中等学校野球大会を中止。
13（月）●妊産婦手帳（後の母子健康手帳）発行が決定。
14（火）●政府、敵性特許権三千余を取り消す。
15（水）●辻政信中佐、独断で第一七軍にポートモレスビー（ニューギニア）攻略を命令。
16（木）●東京第一陸軍病院の看護婦が実弾射撃訓練。
17（金）●国語審議会、仮名遣いは発音どおり（蝶は「てふ」から「ちょう」へ）などと決定。
18（土）●東京の交通事故統計発表。死亡は一日一人強。
19（日）●豪軍捕虜五二人が善通寺俘虜収容所に到着。
20（月）●朝日新聞の月曜日朝刊が二ページに。
21（火）●健民運動の早朝ラジオ体操初日。靖国神社では三万人が参加。
●天皇、宇都宮陸軍飛行場で演習視察。
22（水）●石鹸配給は四人家族で都市部は月二個、地方は月一個、と商工省発表。
23（木）●宮内省、帝室博物館と仏印の遠東学院との国宝級美術品の交流を発表。
24（金）●情報局、一県一紙制など新聞統合策を発表。
●第一回全国高等学校体育大会、開催。
25（土）●大本営、独の対ソ戦参加要請を拒否と決定。
26（日）●前夜からの富士山への戦勝祈願登山者が三万五〇〇〇人を突破。
27（月）●第一回女子中等学校・師範学校体育大会開幕。
28（火）●第一五軍、ビルマ防衛軍を組織。
●米西海岸の日本人一〇万人、アリゾナ州の収容所へ強制収容。
29（水）●在日朝鮮人青年に対する軍事教練を開始。
30（木）●第一次日英交換船、英人ら四五四人乗せ出港。
●延暦寺横川中堂が落雷を受けて全焼。
31（金）●京都飲食店組合、氷の使用廃止を決議。

証言・あの日この日

伊藤 整（37）

12月7日（月）〈昨日、久しぶりに夜の東京銀座辺を見たが、もうすっかり世の中は変ったという気持をひしひしと受ける。……人ばかり歩いていて、東側の夜店も、千代紙とゴムホースぐらいしか売っていない。……町には何もないのだ。まずいコーヒーしかない。各戸に防火壁をとりつけている。……タバコなど見当らず、行人はワカメのようなものにたかって買っている。各店々の店頭はがらんとわびしい〉（伊藤整『太平洋戦争日記』）

コーヒーがまずいのは、コーヒー豆の輸入がとだえ、大豆やどんぐりの粉で作った代用コーヒーしかなかったからだ。それでもこの頃はまだ、資生堂の配給食の定員にまぎれこめれば、〈スープ、フィッシュ（アワビ、コキユ）、肉〉の〈なかなかうまい〉ディナーにありつくことができた。

（坪内祐三）

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲米軍、ガダルカナル島に上陸（8月7日）海兵隊1個師団が突如上陸し、飛行場を占拠。米豪を遮断し、ラバウル基地の安全を確保するため、この島を重要視した日本の奪回作戦が続いた。

▼オペラ歌手・三浦環、日立鉱山慰問（8月14日）金属増産運動にこたえる「つるはし戦士」たちに、「蝶々夫人」などで日本最初の国際的プリマドンナと評価されるソプラノの美声を披露した。

小林信義

▼幻の甲子園優勝（8月29日）朝日新聞社主催では中止となり、大日本学徒体育振興会主催で全国中等学校野球大会が行われ、徳島商業が優勝。しかし、これは高校野球の記録から抹消された。

徳島新聞社

▶モスクワで英・米・ソ3国会議（8月12日）対独作戦変更の説明のため、英首相チャーチル、米代表ハリマンがスターリン首相を訪問。新作戦は北アフリカの独ロンメル司令官の背後を襲う「トーチ作戦」だった。

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀第1次ソロモン海戦、圧勝（8月8日）第8艦隊がガダルカナル沖合の米艦隊を奇襲、重巡4隻などを撃沈した。ただ追撃せず、24日の第2次戦でも米軍を後退させることができなかった。

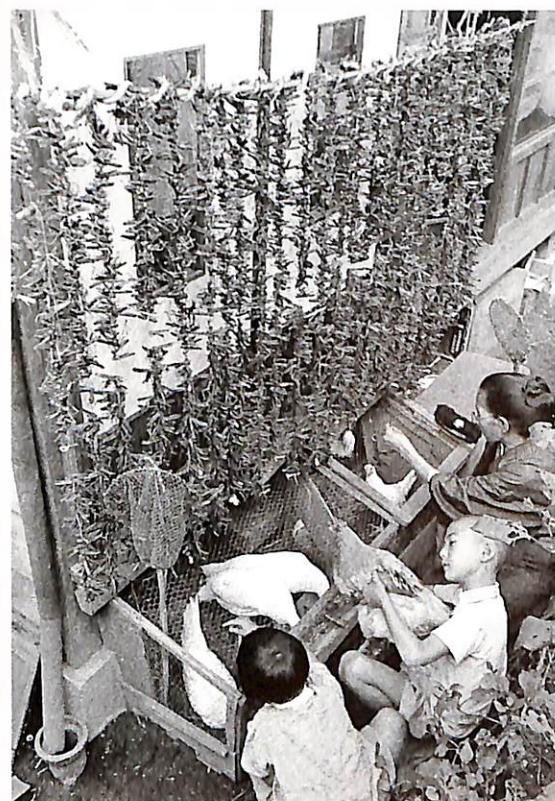
「大東亜戦争報道写真録」より

昭和17年8月

1（土）●ビルマ中央政府が開庁。長官にバモオ。
●戦前最後の全国都市対抗野球大会開幕。
●内務省警保局、盆踊り禁止を解除。
2（日）●静岡・沼津沖で初の学徒団体遠泳大会開催。
3（月）●東京市長に陸軍大将・岸本綾夫。初の軍人市長。
4（火）●東京の浴場業者、防空報国隊を結成。空襲時に浴場を救護用に開放。
5（水）●三菱重工長崎造船所で戦艦「武蔵」竣工。
●読売新聞社と報知新聞社合併。「読売報知」に。
6（木）●内務省が各戸に防空床下待避所奨励と新聞に。
7（金）●米軍、ガダルカナル島に上陸開始。
●大本教の出口王仁三郎が保釈される。
8（土）●ガダルカナル周辺で第一次ソロモン海戦。
9（日）●インドで国民会議派弾圧。ガンジーら逮捕。
10（月）●陸上投擲競技の日本記録保持者・児島フミ、女性初の岸記念賞受賞と決定。
11（火）●東亜旅行社（現・日本交通公社）、旅客激増のため南方旅行相談所を開設。
12（水）●スターリン、米に対日参戦の意志を伝達。
13（木）●米で原爆製造のマンハッタン計画開始。
14（金）●逓信省、電気冷房装置の使用禁止を告示。
15（土）●新京特別市での大東亜博覧会場で火災。
16（日）●東京府、「壮丁」対象の射撃訓練大会実施。
17（月）●東京・九段に東京産報結婚相談所開設。
18（火）●一木支隊、ガダルカナル島に上陸（21日支隊壊滅。一木清直隊長は自決）。
19（水）●農林省、水産会社一六社を四社に統合と決定。
20（木）●第一次日米交換船、駐米大使ら乗せ横浜入港。
21（金）●中等学校の修業年数を四年に短縮。
22（土）●独ソのスターリングラード攻防戦始まる。
23（日）●全国中等学校野球大会に代わる全国大会開催（29日徳島商業優勝。後に記録から抹消）。
24（月）●商工省、アルマイト製規格外品の製造を禁止。
25（火）●東京理容組合の三支部が時局に不適と、坊ちゃん刈りの拒否を決定。
26（水）●兵庫県特高課、待遇改善を要求した川崎重工従業員一七一人を取り締まる。
27（木）●西日本、台風で死者・不明一一五八人、三万三千余戸全壊。瀬戸内海には二〇〇年来の高潮。
●陸軍省監修の記録映画「マレー戦記」封切。
28（金）●経費削減のため警官のサーベルの吊環廃止。
29（土）●東京府、食用ごまの配給を決定。一合四銭。
30（日）●グルー前駐日大使、日本の戦意強固と演説。
31（月）●警視庁、「不良少年」の一斉検挙開始。

朝日新聞社

▲「営団分譲住宅」に申し込み殺到(9月12日)住宅難解消のため4畳半2間と6畳1間の小家族向け住宅を東京と近傍40ヵ所に建設。竣工した東京・板橋などをモデル住宅として、受け付け。値段は月々43円50銭の19年払い。

ユニフォト・プレス

▲独ソ、スターリングラードで攻防(9月13日)前年6月の宣戦布告以来、ソ連領土に破竹の勢いで進攻を続けてきた独軍がこの日、市内に突入。双方の将兵60パーセントが死亡という大激戦となった。しかし、市は陥落せず、11月にはソ連軍に逆包囲され、翌年1月、独軍は降伏した。

▶「満洲建国十周年慶祝式典」(9月15日)新京と東京で同時開催。日比谷音楽堂での式典(写真)には高松宮、東条首相らが出席、盛大な行事となったが、「満州国」を承認したのはこの日まで独・伊など11ヵ国にすぎなかった。

朝日新聞社

▶少年戦車兵学校での1日入学(9月)陸軍の少年兵制度のひとつとして前年2月、少年戦車兵学校が創立された。国民学校高等科卒業後に入学を志願してもらおうと、少年たちを1日体験させた。現在の静岡県富士宮市付近。

◀鶏の餌にバッタ(9月26日)野菜、食肉、魚が配給制になり、雀の捕獲許可が出るほど食糧の窮迫は深刻だった。写真は撮影者の影山光洋宅。多摩川の河原で集めたバッタを干して鶏の餌にし、卵を産ませた。

影山光洋

毎日新聞社

昭和17年9月

1(火)●中央食糧営団発足。配給業務を完全一元化。
●拓務省など廃止し大東亜省の設置決定
●模型飛行機製作が国民学校の正課になる。
2(水)●全国の郵便局で船員志願者を募集と通牒。
3(木)●農林省、早期供出米に奨励金交付と通牒。
4(金)●中野区で親切運動の「女子親切部隊」結成。
5(土)●「満州国」の新国歌が制定される。
6(日)●農林省が食糧増産に七万人動員計画と新聞に。
7(月)●長崎県でデング熱流行し、国民学校が休校(県下患者数は11日までに二千余人)。
8(火)●農作物を荒らす雀を捕獲し焼き鳥にして児童に配給と新聞に。
9(水)●海軍艦載機が米オレゴン州に焼夷弾投下。
10(木)●上野松坂屋が国内物資確保のため「中古品買い入れ」の広告を新聞に出す。
11(金)●「満州国」人口は四千三百二十万余人と新聞に。
12(土)●川口支隊、ガダルカナル島飛行場夜襲に失敗。
●住宅営団が東京で新住宅展覧会開催。一五坪(約五〇平方㍍)の「は型一五号」に競争率八倍。
13(日)●東京商工会議所が「花嫁道場」開設と新聞に。
●ドイツ軍、スターリングラード市内に突入。
14(月)●雑誌「改造」に「世界史の動向と日本」を発表した細川嘉六検挙(横浜事件に発展)。
15(火)●「満州建国十周年慶祝式典」開催。
16(水)●滞日外国人宣教師を抑留所に強制収容。
17(木)●国民学校教科書教材に「軍神」を採用と決定。
18(金)●元五輪選手・三浦弥平、東京―新京間走破のため宮城前を出発。
19(土)●東京府、寿司・鰻・天ぷらの公定価格決定。
20(日)●三三七年前フィリピンに渡ったキリシタン大名・高山右近の顕徳ミサ、マニラで挙行。
21(月)●モンゴルからラクダ四頭・狼二匹などが到着。上野動物園で公開へ。
22(火)●「軍神」加藤建夫少将の陸軍葬挙行。
23(水)●藤田嗣治画「空の神兵」が盗難被害と新聞に。
24(木)●早大文・法の首席卒業はともに女性と新聞に。
25(金)●大本営、海軍潜水艦が独基地に寄港と発表。
●六大都市で漬物用塩の繰り上げ購入認可。
26(土)●国土防衛強化のため、陸軍防衛召集規則公布。
27(日)●ソ連、ド・ゴール政権承認(10月2日米も)。
28(月)●東京府、菓子配給を決定。一四歳以下は四〇銭。
29(火)●東京区検事局が主婦・青果業者らの闇買い出しには厳罰でのぞむ方針と新聞に。
30(水)●朝鮮人男子に一年間の「錬成」を義務化。

毎日新聞社

▲野菜の登録販売制実験(10月)野菜を公平に分配するため、4割を隣組が一括に、6割を世帯別に購入する制度で、11月16日からは東京市など一部地域で実施された。

▼反米英思想の普及(10月)日米開戦を機に目立ってきた。写真は香川県の国民学校の運動会。ルーズベルトやチャーチルの似顔絵をたたくリレーが大真面目に行われた。

四国新聞社

朝日新聞社

▲「代用品」花盛り(10月)大豆、さつま芋、オクラ、どんぐりなどを煎って作った代用コーヒーのほか、雑草や樹皮が主原料という代用石鹸も登場。写真は隣組の主婦たちの手作り風景。

◀南太平洋海戦(10月26日)ガダルカナル島総攻撃を支援するために南下していた南雲忠一中将指揮の機動部隊が、米機動部隊とソロモン諸島東方で交戦。日本は米空母「ホーネット」を撃沈、「エンタープライズ」も中破させた(写真)が、保有機の半分70機を失った。

毎日新聞社

三越提供

◀三越、海南島に出張所(10月10日)海南島(現・ハイナン島)は、南端の三亜に海軍の軍港もある南部北印進攻の重要拠点。写真は楡林売店開店時の記念写真。

昭和17年10月

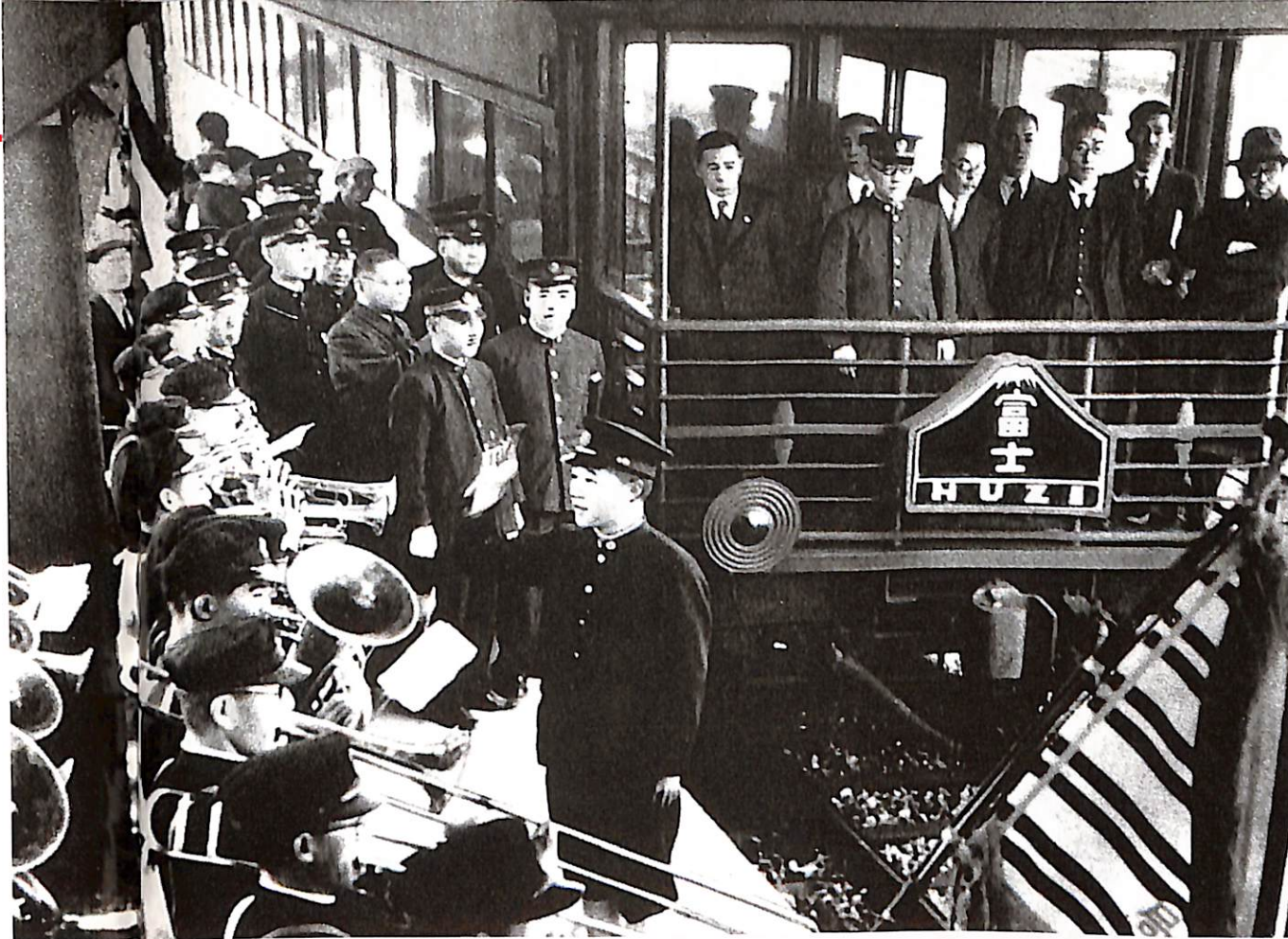
1(木)●電力規制でパーマ用電熱器の使用禁止。
●明治製菓、ミルクチョコレートの製造を中止。
●内田吐夢監督「鳥居強右衛門」封切。
2(金)●第一七軍、ガダルカナル島に上陸開始。
3(土)●葛飾区の労務者住宅完成(家賃二四円)。
4(日)●増上寺で都下大学合同戦没者慰霊祭を挙行。
5(月)●東京府の防空総合訓練が始まる。
●東京帝大工学部に石油工学科新設。
6(火)●文部省、動植物の「敵性名称」廃止を提案。コスモスは秋桜、カンガルーは袋鼠など。
7(水)●絵本日本刊行会編「ヱホンニッポン」創刊。情報局委嘱でマレー語など五ヵ国語併記。
8(木)●配給米がトウモロコシ混入米になると新聞に。
9(金)●米英、中国との不平等条約撤廃を発表。
10(土)●料理屋などでの「米食時間」制限緩和。夕食「五時~八時半」を「五時以降」に。
11(日)●国鉄などダイヤ表示に二四時制を採用。
12(月)●文学報国会主催、国学者・平田篤胤百年祭挙行。
13(火)●商工省、全国百貨店の売り場面積縮小を決定。
14(水)●東京で米と差し引く小麦粉の配給開始。
15(木)●政府指定重要物資は強制買い上げと決定。
16(金)●代用洗剤に卵の殻・米のとぎ汁などと新聞に。
17(土)●都市への人口集中で日中戦争開戦以来五〇の新興都市が誕生と新聞に。
18(日)●軍需産業への長期融資行う戦時金融金庫開業。
19(月)●防衛司令官、本土空襲の米兵は重罪と布告。
20(火)●「愛国百人一首」選定の推薦公募締め切り(推薦歌は七万首、『万葉集』からが最多)。
21(水)●米で過去最大の徴税法成立。九〇億増収。
22(木)●文部省が南方派遣日本語教員を公募と新聞に。
23(金)●靖国神社に金鵄配した五十銭紙幣の発行決定。
24(土)●第一七軍、ガダルカナル島飛行場奪回の第三次総攻撃開始(25日失敗)。
25(日)●大日本青少年団、酒・タバコは戦意高揚に有益と、禁酒禁煙年齢の二五歳延長に反対。
●東京の六郷河原緑郷園体錬場開場。一三万坪。
26(月)●満州への朝鮮人五万戸移住計画発表。
●南太平洋海戦、開始。
27(火)●業界新聞の統合決定。東京で「日本産業経済新聞」、大阪で「産業経済新聞」発行。
28(水)●初の女性週刊誌「週刊婦人朝日」創刊。
29(木)●嵐寛寿郎主演「鞍馬天狗」封切。
30(金)●北千島要塞歩兵隊、アッツ島に上陸。
31(土)●官庁執務時間を平日は二時間延長と決定。

朝日新聞社

▲**下絵を描く棟方志功(11月)** 7月刊行の随筆集『板散華』の後書きで、自作の版画を「板画」と命名することを宣言した棟方は、「アサヒグラフ」11月18日号の記事で「何ものにも負けない精神力」の必要性を語った。

毎日新聞社

読売新聞社

▼**巨人軍優勝(11月18日)** 17年度のプロ野球最終試合が後楽園球場で行われ、試合後の表彰式で、最高殊勲選手の水原茂が出征中のため、長男の信太郎(写真前列中央)が賞を受けた。優勝旗を持つのはスタルヒン(須田博)。

▲**関門海底鉄道トンネル開通式(11月15日)** 遠征部隊の出発・補給基地として、九州を重視した陸軍の要請もあり、6年の歳月と1800万円余をかけて完成した。写真は門司駅に到着した特急「富士」。

キーストン

◀**連合軍、北アフリカに上陸(11月8日)** フランスに事前通知せず、「トーチ作戦」で米英の兵士10万人が上陸開始。無視されたド・ゴールは激怒した。

▶**満州開拓団員、集団結婚式(11月25日)** 農閑期を利用して帰国した開拓団員と、修養団女子拓務訓練生とが集団見合いをして結ばれ、その結婚式が、赤坂の日枝神社で行われた。7組の夫婦は12月20日、満州へ向かった。

朝日新聞社

朝日新聞社

▶**ガタルカナル島から撤退決定(12月31日)** 5ヵ月にわたる死闘を繰り広げたが、この日の御前会議で奪還を断念した。写真は輸送船団の1隻で、11月14日、空爆を受けて座礁した「鬼怒川丸」。

文殊社提供

昭和17年11月

1(日) ●予科練の制服が水兵服から七つボタンになる。
2(月) ●文部省、国民学校への「職業指導科目」導入を決め実施要綱を通牒。
3(火) ●第一回大東亜文学者大会、開催。
4(水) ●川崎航空機明石工場の職工が待遇改善を嘆願。
5(木) ●川崎市で密造メチル焼酎飲み三人が中毒死。
6(金) ●京都の建勲神社で織田信長公三六〇年祭。
7(土) ●鉄道省、行楽旅行や買い出し抑制のため乗車券販売の制限などを通達。
8(日) ●福島県三峰山の日本最大の「大東亜観音」像の第三期工事が終了し、中間法要が行われる。
●米英連合軍、北アフリカに上陸開始。
9(月) ●仏ビシー政権、対米国交を断絶。
10(火) ●文部省、南方派遣日本語教員の第一回合格者発表。五一人中女性が一五人。
11(水) ●小金井国民錬成所開所。「光華殿」と命名。
12(木) ●第三次ソロモン海戦。戦艦「比叡」など損失。
13(金) ●中原千秋長崎工業教諭が新一等星発見と判明。
14(土) ●東京で梵鐘一五〇・半鐘五〇〇を強制供出。
15(日) ●関門海底鉄道トンネルの開通式挙行。
●国鉄、石炭節約で急行の速度を二〇㌫低下。
16(月) ●東京で家庭用蔬菜の登録販売制を実施。
17(火) ●閣議、中国人の強制連行(「華人労務者内地移入ニ関スル件」)を決定。
18(水) ●警視庁、料亭の二合銚子を一合五勺に減量。
●プロ野球最高殊勲選手に巨人の水原茂選出。
19(木) ●ソ連軍、スターリングラードで反撃を開始。
20(金) ●文学報国会選定「愛国百人一首」発表。
21(土) ●大本営、船舶二九万五〇〇〇㌧を新たに徴用。
22(日) ●軍需工場労働者の技能錬成競技会が始まる。
23(月) ●藤原歌劇団、歌舞伎座でワーグナーの「ローエングリン」をグルリットの指揮で初演。
24(火) ●千葉県の農家が東京の国民学校一・二年生三〇万人らにさつま芋一二〇〇俵を贈る。
●政府、玄米食の普及運動実施を決定。
25(水) ●大阪市電、女子専用車の運行を開始。
●東京で満州開拓団の第一陣集団結婚式挙行。
26(木) ●日立製作所亀戸工場で、待遇改善を要求した塗装係の中心人物六人の身柄が拘束される。
27(金) ●「欲しがりません勝つまでは」など「国民決意の標語」入選作一〇点が決定。
28(土) ●東京市議らが帝都翼賛紙芝居連盟結成。
29(日) ●翼賛会主催「国民皆行軍」全国一斉に実施。
30(月) ●独巡洋艦が横浜港で爆発。死者・不明一〇二人。

毎日新聞社

▼**隣組に防毒マスク配給(12月2日)** 内務省は、1戸にひとつの簡易退避所を設けるように奨励。空襲時に備え、大阪・南安堂寺町ではこの日、貴重なゴムを使った防毒マスクが配られた。

▲**占領下での日本語教育(12月)** 政府は「大東亜共栄圏」内の各民族を統合し、日本語を通用語とするため、各地に日本語学校を設置した。写真はフィリピンのビガー村で教える日本人兵士。

松田正志/JPS

▲**轟夕起子、宣伝誌のモデルに(11月)** 情報局の要請で、国際報道工芸が刊行したタイ語グラフ誌「カウパアプ・タワンオーク」の表紙に、人気女優の轟夕起子が起用された。

▼**前進座の飛行機工場慰問(11月30日)** 河原崎長十郎らが立川の昭和飛行機工場を訪れ、歌舞伎の「毛抜」と「権三と助十」を熱演し、広い格納庫に5000人の観衆の歓声がこだました。

毎日新聞社

▲**強まる貯蓄奨励運動(12月1日)** 230億円の貯蓄をめざして、割増金つき「弾丸切手」の第7回の売り出しが始まった。1枚2円で割増金は1等1000円。写真右は切手を買う雪沢愛知県知事。戦況の悪化とともに貯蓄目標は、段階的に引き上げられる。

毎日新聞社

昭和17年12月

1(火) ●東京で仏印産トウモロコシ混入米の配給。
●厚生省、娯楽色一掃した「国防スキー」確立のためスキー場指導管理者修錬会を開催。
2(水) ●米シカゴ大学で初の原子核分裂実験に成功。
3(木) ●日本放送協会、海外放送を二一ヵ国に拡充。
●第一回大東亜戦争美術展、開催。
●東宝映画「ハワイ・マレー沖海戦」封切。
4(金) ●文部省、標準漢字二六六九字を発表。
●英語雑誌名の一掃が決まる(「エコノミスト」は「経済毎日」へ)。
5(土) ●正月用品の特配決定。酒は瓶一本、黒豆六勺。
6(日) ●米海軍省、真珠湾攻撃の被害を公式に発表。
7(月) ●ガダルカナル島への駆逐艦での食糧輸送失敗。
8(火) ●バサブア(ニューギニア)で日本軍守備隊全滅。
9(水) ●南方占領地の地名改称を発表。マレーをマライ、バタビアをジャカルタなど。
10(木) ●一八八の調査機関を統合し調査研究連盟発足。
11(金) ●厚生省、結核対策予算を従来の三倍と発表。
12(土) ●全国で一二の私鉄が国営化される。
13(日) ●栃木県で薪不足の東京に向け薪供出運動実施。
14(月) ●玄米食普及が一ヵ月で二倍と東京府食糧営団。
●諏訪根自子、ベルリンでバイオリン独奏会。
15(火) ●大政翼賛会、「海ゆかば」を国民歌に指定。
16(水) ●独、五〇万人以上のジプシー絶滅計画を開始。
17(木) ●各省次官会議、正月休暇を元日のみと決定。
18(金) ●東京の九〇医療機関で歳末無料診療実施。
●日本出版会、新聞以外の振りがな廃止と決定。
19(土) ●東京の高等女学校生徒一〇万人が作製した慰問袋二万余個を献納。
20(日) ●米、抑留中の日本人は一四六〇人と発表。
21(月) ●東京で電話線用いた初の有線放送実施。
●大阪市、輸送力増強のため座席なし列車試作。
22(火) ●ホテル宿泊料の統制開始。一級一人一二円。
23(水) ●大日本言論報国会(会長・徳富蘇峰)設立。
●東京でガス超過使用家庭にガス栓の封印開始。
24(木) ●厚生省、地方医師会三八・歯科医師会三七の設立認可と発表。
25(金) ●比に一年滞在の火野葦平と三木清が帰国。
26(土) ●三井船舶、設立(28日大阪商船設立)。
27(日) ●鉄道省、年末年始の旅行制限を実施。
28(月) ●出版用紙削減。単行本五割、雑誌は六割減。
29(火) ●「愛国百人一首」発売。情報局「競技大則」勧奨。
30(水) ●華北で八路軍など弾圧の「大別山作戦」開始。
31(木) ●大本営、ガダルカナル島からの撤退を決定。

流行語
軍隊のカッコよさを強調

「七つボタン」。この年一一月、予科練（海軍飛行予科練習生）の制服が水兵服から七つボタンの詰め襟に変わった。もともと海軍は陸軍よりもカッコいいと言われていたが、これによってさらに人気が上昇。特に翌年「若鷲の歌」で〝七つ釦は桜に錨〟と歌われると、それを着た若者たちが若い女の子の憧れになってゆく。

「銀輪部隊」。開戦以来、日本軍は怒涛の勢いでマレー半島を南下、二月一五日にはシンガポールをおとしいれた。その中心となったのがジャングルを駆け抜ける自転車部隊、すなわち銀輪部隊で、さっそうとした日本軍の象徴とされた。

「軍神」。三月六日、海軍は真珠湾攻撃の際、特殊潜航艇で湾内に突入して死んだ九人を二階級特進させると発表、新聞で「九軍神」と報道された。これが太平洋戦争における軍神の第一号で、以後、次々に軍神が作られた。

「バケツ・リレー」。木造家屋の密集する日本では、空襲に備えて防火のための水を運ぶバケツ・リレーが欠かせぬ訓練となり、四月に東京が初めて空襲を受けると、ますますさかんになった。ただし空襲が本格化すると、そんなものでは何の役にも立たなかった。

◀石川進介「出征——ジョン、白旗を忘れないで持ってゆくのよ」が「漫画」昭和17年5月号に掲載された。

CM100年

ポスター「節米は気持一つで未だ出来る」（日本百貨店組合）『昭和広告60年史』より

▲前年から始まった米穀配給通帳制に続き、17年2月からは味噌・醬油も対象に。

衣
衣料不足の珍現象 店の売り値より高い質値

昭和一七年二月一日から衣料品点数切符制が実施された。その頃、全国には約一万軒の質屋があったが、切符制につれて質屋では意外なことが起こった。普通、質屋で貸してくれる金は、買ったばかりの新品でも、その値段の数割といったところだが、買った値段より質屋で貸してくれる金の方が多くなったのだ。たとえば一〇円の銘仙なら一五〜二〇円は確実だったし、三円くらいのメリヤスのシャツでも五〜一〇円は貸してくれた。継ぎのあたったワイシャツでさえ三〜五円になった。衣料不足で、質に入れた人が流すことはまったくと言っていいくらいなかったから、質屋の方でも安心して高額を貸したのである。

（読売新聞社編『昭和の横顔』）

食
最高裁が魚の切り身の新定義

最高裁が五月一九日「頭とわた（内臓）をのぞいただけの魚は切り身ではなく丸（一尾）である」という新しい判例を下した。和歌山市の鮮魚商はビンナガマグロを卸した際、頭と内臓を抜いて骨つきで売った。しかもこれから切り身がいくつ取れると計算し、丸の公定価格より高くなる切り身の合計の価格で売ったため、和歌山署が国家総動員法違反として検挙した。

鮮魚商はこれを不満として上告していたが、最高裁は「切り身とは生鮮魚類の頭とわたをのぞくほか、切断などの処置をなすべきで、たんに頭とわたをのぞいただけでは切り身とは認められず、丸と見なすべき」と判断した。

（「大阪毎日新聞」五月二〇日）

▲15カ国語版、約7万部が印刷された対外宣伝誌「FRONT」創刊号（2月）

レジャー
王座は浪花節と漫才 初の演劇嗜好調査

文部省が劇場と劇団、上演種目に関するわが国最初の調査を行った。それによると四万一〇〇〇を超える上演種目のうち断然多いのは浪花節と漫才で一万五二〇〇、次いで現代劇六九〇〇、歌舞伎四七〇〇。ちなみに常設劇場の一番多いのは北海道の一五二で、次いで愛知、福島、岐阜、広島。東京は六五で第九位だった。

（「読売新聞」五月二〇日）

三面記事
米軍は戦争よりセックス好き

昭和一七年二月、佐藤賢了軍務局長は衆院予算決算委員会で、ある議員の質問に答えて、米陸軍に対する私見を述べた。要約すると、

アメリカの婦人というものは元来セックスの要求がさかんで、一週間以上良人と別居した生活にはとうてい耐ええぬから、軍人たる男子は長駆遠征するには不適格だというのである。

このように軍人は米陸軍に対する軽侮感が強く、たかだか国内でインディアン征討ぐらいしか経験のない米陸軍が日本軍と一戦すれば、たちまち敗走するという自惚れがあった。佐藤局長の論は、日本が緒戦大勝の状況下で述べられたものだけに議員たちの拍手喝采を博したけれども、その後の実戦を通じて嘘八百であることが実証される。

（矢次一夫『東条英機とその時代』）

▲この年8月製造の「戦時石鹼」。原料の油脂などが不足し、粘土分7割。花王提供

はやり歌

新雪

作詞 佐伯孝夫　作曲 佐々木俊一

一
紫けむる　新雪の
峰ふり仰ぐ　このこころ
ふもとの丘の　小草をしけば
草の青さが　身にしみる

二
けがれを知らぬ　新雪の
素肌へ匂う　朝の陽よ
わかい人生に　幸あれかしと
祈る瞼に　湧くなみだ

三
大地を踏んで　がっちりと
未来へ続く　尾根づたい
新雪光る　あの峰こえて
ゆこうよ元気で　若人よ

福田俊二提供（2点とも）

▶藤沢桓夫の新聞小説「新雪」を大映が映画化したものの主題歌。清新な歌詞とメロディーで大ヒットした。歌は灰田勝彦。

マニラの街かどで

作詞 佐伯孝夫　作曲 清水保雄

一
いつか見たこの夢　嬉しい夢
今日は迎えて楽し　我等の街よ
花のマニラの街　青空高く
喜びは胸に充ち　苦し夜は明けゆく
花のマニラの街　とく走れ小馬車
深みどり　鐘は鳴る　新しき朝だ

二
いつか見たこの夢　嬉しい夢
今日は迎えて楽し　我等の街よ
楽しマニラの街　莨のかおり
南国の娘達　健やかな黒髪
楽しマニラの街　若き日の歌に
建設の日は昇る　輝ける朝だ

三
花のマニラの街　青空高く
喜びは胸に充ち　苦し夜は明けゆく
花のマニラの街　とく走れ小馬車
深みどり　鐘は鳴る　新しき朝だ

◀中国や南方の占領地に材をとった「大陸メロディー」と呼ばれたうちの一曲。灰田勝彦（写真）と歌上艶子の歌。

JASRAC（出）許諾第9703919-701号

戦争
戦況の逆転は缶詰の食いすぎにあり

連戦連勝の快進撃を続けていたわが機動部隊の最初のつまずきは珊瑚海海戦（昭和一七年五月）の序幕にあった。それも偵察員がパイナップルの缶詰を食べすぎて、腹痛を起こしたことから生じたのである。

その日、索敵機から「敵の航空母艦見ゆ」との緊急電が入ったので、「瑞鶴」と「翔鶴」の両空母から爆撃機や零戦など七八機が飛び立ったが、まもなく「航空母艦は油槽艦（タンカー）の誤りでした」との連絡が入った。空母と油槽艦を見誤るとはどういう偵察員だと思っていたところ、ある少佐が偵察員は今日だけの補欠で、正規の偵察員は腹痛で寝ていることを教えてくれたのである。

ところがその時、本物の敵機動部隊が現れた。爆撃機などは魚雷を積んだまま帰艦することは大変危険なので、それらを海中投棄したうえで着艦し、再び燃料と爆弾を積んで飛び立ったが、この数時間と少ない爆弾を無駄にしたことは痛かった。この錯誤がなかったら珊瑚海海戦もミッドウェー海戦も、もっと有利な戦況となっていたであろう。

（福地周夫『海軍くろしお物語』）

社会
長びく戦争でデマ、噂の乱舞

〔横浜発〕戦争が長びくにつれ、あらぬ流言が飛ばされてくる。

東京では先頃、買い出し行列の婦人が官憲によって連れ去られるという流言が広がったが、横須賀署によれば、最近同市内でも次のような流言が流布されている。すなわち「大東亜戦争は一年か二年半で終わるが、その後悪疫が流行する。しかし今のうちにお赤飯と梅干し二つ、らっきょう三つを神棚にお供えすると、この病気にかからない」というのである。

（「神奈川新聞」二月一八日）

▶金沢市内でビリヤードを楽しむ四高生。年末には点数を数える女性はいなくなる。能登印刷

◀岡山第一商業学校相撲部の卒業を前にした記念撮影。昭和一七年一〇月頃。小泉正巳

この年の初もの
ワンマンバスが都内の二系統に

●**メタン自動車**　下水処理で発生するメタンを燃料としたもので、京都にお目見え。

●**ばい菌の缶詰**　コレラ、チフスから流感の菌まで缶詰にして永久保存、必要な時に取り出してワクチンを製造しようというもので、名大医学部で完成。もちろん殺人兵器にもなる。

●**アクアラング**　フランスのクストー大佐が発明。

世界の動き

労働による疲労死か、即時抹殺か 600万ユダヤ人の"組織的殺害"を決めた ナチス「ヴァンゼー会議」の戦慄!

▲アウシュビッツ第二収容所(ビルケナウ)の"死の門"。この門を通って貨車で移送されてきたユダヤ人の大部分は、生きてここから出ることはできなかった。 平和博物館を創る会提供

独ソ戦の戦況が混迷する中で開かれた「ヴァンゼー会議」は"労働可能なユダヤ人"を疲労死させ、"労働不能なユダヤ人"を即座に抹殺する方針を確認した。ドイツ占領下の二一ヵ国に約九〇〇万人いたユダヤ人は、ナチスが政権を奪ってわずか三年の間に、三分の二にあたる約六〇〇万人が殺されたのである。

秘密会議が下した"最終解決"の意味

一九四二年一月二〇日、ベルリン南西部の閑静な住宅が立ち並ぶヴァンゼー湖畔の邸宅で、ドイツ第三帝国のエリート高官一五人による会議が開かれた。

会議を招集したのは、国家保安本部長官とボヘミア・モラヴィア保護領総督代理などの要職を兼務していたラインハルト・ハイドリヒ(三七)。そのほか、親衛隊中将でゲシュタポ長官のハインリヒ・ミュラー(四一)や、親衛隊中佐で保安本部ユダヤ人局責任者のアドルフ・アイヒマン(三五)をはじめ、内務省、外務省、内閣官房といった主要な官庁の"事務次官クラス"が集合した。

▶「ユダヤ人問題最終解決」執行責任者、R・ハイドリヒ。この年六月、プラハ近郊で暗殺される。 PPS

後に、「ヴァンゼー会議」と言われるこの会議で話し合われた"中身"について、戦後、ニュルンベルク継続裁判に証拠提出されたアイヒマンの議事録(速記録ではなく、会議の筋を概括した要点録)にこんな一文が残されている。

▲ワイマール近郊にあったブーヘンヴァルト強制収容所の囚人たち。「解放」の際、その意味すら理解できない状態だった。 マーガレット・バークホワイト(LIFE)/PPS

「ユダヤ人問題の最終解決の過程で、今後ユダヤ人は適切な方法で労働の場に配置される。男女別に労働部隊を編成し、働けるユダヤ人は道路工事に従事させながら、東方に移動させる。その際、大部分が自然に衰弱して脱落するだろう。万が一、最終的に生き残った部分は、(中略)しかるべく処置をしなければならない。(中略)これを放免すればかならず、新しいユダヤ人再建の萌芽(ほうが)となるからである——歴史はそう語っている」

つまり、この会議で"労働可能なユダヤ人"を軍需生産などに利用し、"労働不能なユダヤ人"は即時抹殺することを、高官たちが確認していたのである。

ユダヤ人の「絶滅」か「労働力の活用」か

議事録に見られる、いわゆる"最終解決"は、今ではナチス(国民社会主義ドイツ労働者党)のユダヤ人絶滅政策を意味する言葉として理解されている。ところが、ナチスのリーダーたちの間では、それがドイツの「非ユダヤ化」を目的にしている点で一致していても、"手段"についてはユダヤ人対策の主導権をめぐる争いや、優れたユダヤ人の労働力を活用したい企業の思惑がからみ合い、"一枚岩の団結"というわけではなかった。

一九三三年一月三〇日に新首相に任命されて以来、アドルフ・ヒトラーは、ユダヤ人の公民権を奪う「ニュルンベルク法」(三五年)、資産を没収した「ユダヤ人財産申告令」(三八年)などを矢継ぎ早に制定し、ユダヤ人を"ドイツの内敵"というスケープゴートに仕立てることで、みずからの政権を強化してきた。そのヒトラーでさえ——強制収容所などで、ソ連兵捕虜やユダヤ人の虐殺を後に始めるものの——一九三九年のドイツのポーランド侵攻にはじまる第二次大戦開始前は、"国外移住"をユダヤ人政策の基本方針としていたのである。

▲アウシュビッツの第一焼却場のガス室。一度に800人もの人間を死にいたらしめた。 若橋一三

「ユダヤ人を追い出し、ゲルマン民族の純潔をもって大帝国を建設するのが、ヒトラーの早くからの構想でした。実際、移住政策は第二次大戦が始まってからも続けられ、一九三三年から四一年までにパレスチナに移住したドイツ・ユダヤ人は五万五〇〇〇人にものぼったのです」と神戸大学の栗原優教授は指摘する。

絶滅を加速させたゲットー政策の破綻

"最終解決"の意味が、「ゲットー・収容所への強制移送」へと変わったのはいつか。それは一九四一年の八月頃だった。まず、ポーランドやデンマークといった"新領土"を獲得したことで、ドイツは、新たに数百万人ものユダヤ人を抱えこんだ。ユダヤ難民の流入を嫌った国々の国境閉鎖によって、移住先のない膨大なユ

外から見たNIPPON

グルー米大使が目撃したドゥーリトル隊の日本初空襲

——佐伯 修

▲送還後、本国で国務次官をつとめた。

昭和一七年四月一八日、快晴の土曜日の昼下がり、ジェームス・ドゥーリトル中佐率いる米陸軍航空隊のB25爆撃機の編隊が、帝都・東京の上空に侵入、爆弾と焼夷弾を投下しながら、本州を通り魔のようによぎっていった。

米軍による、この日本本土初空襲の模様を、たまたま地上から目撃した米国人がいた。合衆国駐日大使ジョセフ・C・グルー（一八八〇〜一九六五）もその一人で、日録『滞日十年』（一九四四）の中に、その模様を書き残している。

「スイス公使が来訪され、昼食で帰るという時になって、かなりな飛行機が頭上を飛ぶ音が聞こえ、数ケ所で大変な煙が出て火災が発生しているのが認められた。最初、これは訓練かと思われたが、まもなくアメリカ軍爆撃機による初めての大がかりな日本空襲であることに気がついた。（……）われわれはそのうち一機を目撃したが、高度を落として建物すれすれに西の方へと低空で飛行していった。最初そのまま墜落するのではないかという気がしたが、戦闘機の急降下攻撃と対空砲火を避けるために、あえてそのような飛び方をしているのだということがわかってきた。（……）大使館では全員が喜びにつつまれ、誇らしい思いに胸がふくらんでいた。イギリス人がのちに語ったところによると、一日中アメリカ軍飛行士のために乾杯を続けたということであった」（吉田一彦『ドゥーリトル日本初空襲』より）

なお、このほかにも、この爆撃を地上で体験した米国人がいた。スパイ容疑で東京拘置所の独房に収容されていた「ニューヨーク・タイムズ」記者、オットー・D・トリシャスは、空襲警報のサイレンと砲声、そして看守の言葉から、この自軍の空襲を知った。「アメリカ軍の飛行機の大部隊がやって来てこの東京をこっぱみじんにして、次いでにこの拘置所も吹き飛ばしてくれ」と祈り続けていたトリシャスは、「大変良い気分」だったという（同書より）。

日本の国際連盟脱退から、日中全面戦争、第二次世界大戦勃発、そして日米開戦と、最も日米関係が緊迫した時期に駐日大使をつとめたグルーは、当時、大使館員たちとともに館内に軟禁され、憂さ晴らしのゴルフに明け暮れていた。彼は、第一次大戦の時も、敵国となるオーストリアのウィーンで、代理公使として米国参戦を迎えている。

なお、日本本土を初〝空襲〟したのは中国で、昭和一三年五月、九州にビラを投下した。

ダヤ人がドイツ占領地に集まっていったのである。

そこに追い打ちをかけたのが、四一年末から雲行きが怪しくなった対ソ連戦だ。当初は〝破竹の勢い〟だったドイツ軍が、この頃になると戦況が停滞し、折しも深刻な食糧不足とチフスが、ゲットーや収容所に住むユダヤ人たちを襲った。いわば、袋小路の状況の中で行われたのが、「ヴァンゼー会議」だったのだ。

「ひとつの民族を残らず組織的に殺害することを、省庁が集まって協議・調整するなど、歴史上でも前代未聞のこと。この会議は、ある意味で、ヨーロッパ大陸全体のユダヤ人の運命を左右することになったと言えるでしょう」（東京女子大学・芝健介教授）

あたかもヴァンゼー会議での確認を受けたかのように、四二年以降、アウシュビッツ第二収容所（ビルケナウ）をはじめトレブリンカ、ソビブルなどに、「労働不能なもの」として〝選別〟された人々が送りこまれ、〝高度に工業化された大量殺人〟が行われることになる。

最大規模のアウシュビッツ強制収容所では、最初に老人や女性、子どもが「浴室」と呼ばれた地下室へ連行された。床下から広がる毒ガス「チクロンB」を逃れるため、あるものは絶叫しながら鉄扉に体当たりし、あるものは天井に近づこうと死体の上に重なりあって死んでいったのだった。一九四五年一月二七日の午後、ソ連軍がアウシュビッツに到着した際、約七〇〇〇人の人々が生き残っていたが、同時に三四万八八二〇着の男物スーツ、八三万六二五五着の女物コート、それに七トン以上の髪の毛も発見された。ポーランドのアウシュビッツ＝ビルケナウ国立博物館は、犠牲者総数を約九九万人と推定している。

アメリカン・フォト・ライブラリー

▲収容所の囚人たちの死体が無数に遺棄されていた爆弾工場。

往きて還らぬ

◀8月23日　竹内栖鳳（77）
画家。パリ万国博など内外の展覧会で受賞を重ね、昭和一二年文化勲章受章。上村松園ら多くの弟子を育てた。

▲4月15日　ロベルト・ムージル（61）
オーストリア・ハンガリー帝国の没落を描いた小説『特性のない男』（未完）によって、死後、世界的に認められた。

▲11月2日　北原白秋（57）
詩人。明治42年『邪宗門』刊行。象徴詩人として知られ、童謡・民謡なども手がけた。ほかに『思ひ出』など。

▶5月7日　F・ワインガルトナー（78）
ウィーンで活躍した指揮者。典雅な指揮で知られ、昭和一二年来日、管弦楽を育てるワインガルトナー賞を設立。

共同通信社

▲1月28日　徳山璉（38）
歌手。音楽学校の講師を経て「侍ニッポン」で歌手デビュー。「ルンペン節」「隣組」などのヒットを飛ばした。

▲11月5日　清浦奎吾（92）
政治家。山県有朋の信を得て法相などを歴任。大正13年首相となったが、選挙で敗れ、半年で総辞職した。

▲5月29日　与謝野晶子（63）
歌人。明治34年の処女歌集『みだれ髪』は浪漫主義の記念碑と言われる。母性保護など婦人問題でも活躍した。

▲5月11日　萩原朔太郎（55）
詩人。大正6年処女詩集『月に吠える』刊行。豊かな感受性と表現力で口語自由詩を完成させた。ほかに『詩の原理』。

▲2月23日　S・ツヴァイク（60）
反戦論と人道主義を提唱したオーストリアの小説家で、第2次大戦中ブラジルに亡命、自殺した。著者に『アモク』。

▲12月4日　中島敦（33）
小説家。南洋庁の役人時代に『山月記』『光と風と夢』を発表。芸術至上主義的作風で知られる。ほかに『李陵』（遺稿）。

▶5月15日　佐藤惣之助（51）
詩人。大正五年詩集『正義の兜』刊行。「赤城の子守唄」「人生劇場」など歌謡曲の作詞家としても有名。

毎日新聞社

▲4月1日　白鳥庫吉（77）
世界的に知られる東洋史学者。研究対象は朝鮮、中国からトルコまでおよび、〝邪馬台国論争〟にも火をつけた。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第21号 7月1日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1943［昭和18年］

●特集
神宮外苑競技場で七七校が雨中の行進「学徒出陣」の悲劇！／古川緑波も泣いた"悲食"の時代／毒殺、餓死……動物たちの受難！ 上野動物園から二七頭の猛獣が消えた日／ドイツの最新兵器を求めて……往復五万四〇〇〇キロの決死行 潜水艦「伊8号」二〇四日目に帰投！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…大本営、ガダルカナル撤退を「転進」と発表（2月9日）／日本野球連盟、用語の日本語化決定（3月2日）／アッツ島守備隊、玉砕（5月29日）／キスカ島守備隊、撤退に成功（7月29日）／イタリア、無条件降伏（9月8日）／鳥取大地震（9月10日）／米・英・ソ、テヘラン会談（11月28日）

●人物クローズアップ
山本五十六、ソロモン上空で戦死！

●決定的瞬間
宮武東洋が撮ったマンザナー収容所

●美の出会い
アニメの傑作「くもとちゅうりっぷ」

●女たちの肖像…戸栗郁子から「東京ローズ」へ／勝者・敗者…戦時下"最後の早慶戦"／証言・あの日この日…日夏耿之介、清沢洌／20世紀博物館…お札と切手の博物館（東京）／「現場」を歩く…登呂遺跡と軍需工場／外から見たNIPPON…詩人・アンワルの失望

●ベストセラー…『死者の書』『司馬遷』の意味／スターと名場面…黒澤明「姿三四郎」、阪妻の「無法松の一生」／モノ語り'43…「ハンドル式電灯」「竹製かぶと」

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号1959［昭和34年］ 第2号1964［昭和39年］ 第3号1945［昭和20年］ 第4号1970［昭和45年］ 第5号1963［昭和38年］ 第6号1958［昭和33年］

第7号1972［昭和47年］ 第8号1980［昭和55年］

第9号1976［昭和51年］ 第10号1989［平成元年］ 第11号1960［昭和35年］ 第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第14号1965［昭和40年］

第15号1966［昭和41年］

第16号1967［昭和42年］

第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第19号1941［昭和16年］

■今後の刊行予定

第22号1944［昭和19年］

第23号1946［昭和21年］

第24号1947［昭和22年］

第25号1948［昭和23年］

第26号1949［昭和24年］

▶第27号1950［昭和25年］8月12日発売
「朝鮮特需」35億6000万ドルと日本●藤原氏4代の遺体、学術調査●「正村ゲージ」機登場でパチンコブーム●頻発する"アプレゲール"犯罪と若者たち
▶第28号1923［大正12年］8月26日発売
関東大震災、帝都を直撃●未公開アルバム発掘！岡田紅陽が撮った「帝都壊滅」●山野千枝子、丸の内美容院を丸ビル内に開店●アル・カポネ売り出す
▶第29号1971［昭和46年］9月2日発売
マクドナルド1号店、銀座にオープン●元祖ネズミ講、熊本市第一相互経済研究所の"虚構"●日本、変動相場制に移行●林彪、逃亡中に墜落死の謎
▶第30号1973［昭和48年］9月9日発売
第1次石油危機、日本を直撃●白昼、東京で拉致され韓国へ運ばれた金大中事件●怪物ハイセイコー、10連勝●「8時だョ！ 全員集合」人気の秘密
▶第31号1974［昭和49年］9月16日発売
「ベルばら」大ヒット●田中金脈をあばいた立花論文で田中首相辞任へ●セブンイレブン開店●ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任
▶第32号1975［昭和50年］9月22日発売
●赤ヘル軍団初優勝●「紅茶キノコ」と健康法ブーム●中国の始皇帝陵で兵馬俑発掘●30年にわたるベトナム戦争終結
▶第33号1977［昭和52年］9月30日発売
キャンディーズとピンク・レディー旋風●王貞治、ホームラン世界一を達成●世界一の長寿国、高齢化社会の苦悩●ニューヨーク25時間の大停電
▶第34号1978［昭和53年］10月7日発売
●日本全土で、カラオケ、爆発的ブーム●新実力者・鄧小平来日●サラ金地獄が社会問題化●英国で世界初の試験管ベビー誕生
▶第35号1979［昭和54年］10月21日発売
インベーダーゲーム、大流行●大ヒット「ウォークマン」開発物語●『ジャパン・アズ・ナンバー・ワン』刊行●ホメイニ師、イランに帰国
▶第36号1951［昭和26年］10月28日発売
サンフランシスコ講和条約調印●「羅生門」ベネチア映画祭でグランプリ●初のプロ・モデルによるファッションショー●アメリカ、ネバダで核攻撃演習

ミニ事典

1942年のキーワード

大詔奉戴日
政府は、日中戦争開戦後の国民精神総動員運動の一環として昭和一四年来実施してきた興亜奉公日を発展解消し、毎月八日を大詔奉戴日とすることを決めた。学校・職場ではこの日、詔書奉読式、必勝祈願、各戸の国旗掲揚、職域奉公などを実施することとし、天皇を奉じる翼賛意識をさらに高めることをねらいとした。

少国民
年少の国民のことで「皇国臣民」の予備軍の意味を含む。二月一一日、情報局、内務・文部・商工各省の後援で児童の読み物、映画・音楽・玩具などを指導・育成する日本少国民文化協会が設立され、同協会創立準備委員で作家の山本有三の提唱もあって、以降、児童を少国民と言いならわすことが定着していった。

朝日新聞社

▶自宅の書斎を「三鷹少国民文庫」として子どもたちに開放する山本有三。

フクバラハップ
フィリピン共産党の指導で三月二九日、ルソン島の森林地帯カビヤオで結成された抗日人民軍（タガログ語の略称がフクバラハップ）。農民を中心に労働者、知識人が日本軍追放と地主制打倒をめざして結集、最大の抗日ゲリラ組織となった。総司令官ルイス・タルク。戦後は米軍や政府軍と戦い、衰亡した。

戦時家庭教育指導要綱
文部省が、重大時局に際し子女が心掛けるべきこととして、伝統的家族制度の維持、女性と子どもの家への従属と国家への奉仕を説いた要綱。五月七日、各地方長官に通牒。「わが国の家の特質」「健全な家風の樹立」「母の教養訓練」「子女の薫陶養護」「家生活の刷新充実」の五項目からなる。

泰緬連接鉄道
中国軍への物資輸送ルートを遮断し、日本軍の陸上補給路を確保するため七月五日に建設が始まったタイ（泰）―ビルマ（緬甸）間四一五キロを結ぶ軍用鉄道。工事にインドシナなどから強制連行してきた労働者と連合国側の捕虜合わせて一二万五〇〇〇人を投入、翌年一〇月に完成した。しかし、莫大な犠牲者を出したため、日本側関係者一一一人が戦後、BC級戦犯の罪に問われた。

一県一紙制
言論統制と用紙統制を推進するため一道府県に新聞一紙と限った制度。七月二四日、全国紙五紙、ブロック紙三紙、地方紙一道府県一紙とする方針が閣議決定された。これで読売と報知が合併して読売報知に、国民新聞と都新聞が協力して公益法人による東京新聞を発刊するなど、昭和一三年に七三九紙あった日刊紙が五四紙に整理統合された。

ビルマ防衛軍
日本軍が七月二八日、民族主義タキン党のアウンサン少将を司令官として組織したビルマ人の軍隊。ビルマ工作を担当していた南機関が昭和一六年に組織した独立義勇軍が訓練不足で規律も乱れたため、約三万人のうちから精鋭二八〇〇人を残して編成しなおした。後にこの軍隊が反日・反英闘争の中心となり、一九四八年の独立達成に貢献した。

マンハッタン計画
第二次大戦中にアメリカで行われた原子爆弾製造のためのプロジェクト。八月一三日発足。責任部署を暗号名で「マンハッタン工兵管区」と言ったためこの名がある。翌年、物理学者オッペンハイマーを所長にニューメキシコ州ロス・アラモスに原子力研究所が作られ、計画は極秘に進行、一九四五年七月、アラモゴードの砂漠で実験に成功した。

大東亜省
「大東亜建設」の遂行にあたるため拓務省、興亜院、対満事務局などを解消・統合して、一一月一日に発足した行政官庁。国務相・青木一男が初代大臣に就任した。「大東亜」とは日本・満州国・中国のほか、東南アジア、インド・オセアニアを含む範囲とされ、昭和一三年に近衛内閣が発表した「東亜新秩序」の具現化だった。

愛国百人一首
文学報国会が情報局、翼賛会の後援で選定した『万葉集』から幕末までの和歌のうち、優れて日本精神を詠んだとされる一〇〇首。一一月二〇日発表。一般推薦約七万首と佐佐木信綱ら選考委員が持ち寄った歌を合わせて最終決定した。年末、文字だけのかるたが発売に。「けふよりはかへりみなくて大君の醜の御盾といでたつわれは」「君がため世のため何か惜しからむ捨ててかひある命なりせば」などに人気があったという。

◀「愛国百人一首絵入歌留多」。

欲しがりません勝つまでは
「大東亜戦争」開戦一周年を記念して大政翼賛会と朝日・東京日日・読売報知の三紙が公募した「国民決意の標語」入選作一〇点のうちのひとつ。戦争の長期化で物不足が深刻になる中、状況を巧みに言いあてた標語として流行、また国民に我慢を強いる合い言葉となった。

大日本言論報国会
内閣情報局の指導に基づき戦争に協力的な評論家ら約一〇〇〇人が参加して結成された組織。「聖戦完遂のため日本的世界観を確立して大東亜新秩序の建設の原理と構想とを明らかにすること」などを運営目的とした。会長は徳富蘇峰。日本主義の団体「日本世紀社」や日本評論家協会のメンバーが中心になり、雑誌「中央公論」「改造」などを攻撃、両誌は廃刊に追いこまれていった。

共同通信社

▶昭和一七年一二月二三日の発会式で祝辞を述べる谷正之情報局総裁。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1942

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邊裕之
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井幸之助 井上女神 影山光洋 影山智洋 菊池俊吉 小泉正巳 小柳次一 斎藤守司 竹内博 但馬一憲 豊崎博光 平野美津子 福田俊二 古川清 マーガレット・バークホワイト 松田正志 三木淳 薮敏也 横山隆一 若橋一三 朝日新聞社 アメリカン・フォト・ライブラリー 潮書房 光人社 キーストン 共同通信社 月刊沖縄社 CORBIS-BETTMANN NN 佐賀新聞社 JPS 四国新聞社 TIME・LIFE 徳島新聞社 能登印刷 PPS Black・Star ベースボール・マガジン社 Popperfoto 毎日新聞社 文殊社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 花王 資生堂 三越 杉野学園ドレスメーカー学院 東京ドーム 東宝 松竹 映画文化協会 尾崎行雄記念館 埼玉県平和資料館 自転車文化センター たばこと塩の博物館 東京動物園協会 豊島区立郷土資料館 日本はきもの博物館 平和博物館を創る会 明治・大正・昭和戦争博物館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1942
●ミッドウェーの大惨敗!
7月8日号
第1巻第20号 通巻20号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円
雑誌 23702-7/8 T1123702070566
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社